

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄					備考			
計画の区分	研究科の専攻の設置								
設置者	学校法人 関西学院								
大学の名称	関西学院大学大学院 (Kwansei Gakuin University Graduate School)								
大学本部の位置	兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155号								
大学の目的	関西学院大学大学院は学部における一般的及び専門的教養の基礎の上に、専門の学科を教授研究し、深広な学識と研究能力とさらに進んで研究指導能力を養い、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うとともに、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶し、もって文化の進展に寄与することを目的とする。 修士課程は、広い視野に立つて精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。 博士課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。								
新設学部等の目的	先進エネルギーナノ工学専攻 (M) グリーンイノベーションの基盤となる、エネルギーを「創る」、「蓄える」、「運ぶ」、「有効に使う」の4つの分野において、基礎から応用までの幅広い知識と深い専門性を修得させる。今後の持続可能な社会を構築するために、先進エネルギー分野における、創造性と即戦力を身につけ、新たな視点からエネルギー問題に取り組むことができる問題発掘・解決型の高度専門職業人（技術者・研究者）を育て、社会の要請に応えることを目的とする。 先進エネルギーナノ工学専攻 (D) ナノテクノロジーを基盤とした新しいエネルギー科学技術分野において、博士課程前期課程で獲得した知識や技能を基礎として、自身の専門分野をさらに高度化・深化させ、学問として知識の体系化ができる能力を修得させる。今後の持続可能な社会を構築するために、先進エネルギー分野における、創造性と即戦力、高い専門性より高度な研究能力を身につけ、新たな視点からエネルギー問題に取り組むことができる問題発掘・解決型の高度専門職業人（技術者・研究者）を育て、社会の要請に応えることを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】理工学部先進エネルギーナノ工学科
	関西学院大学大学院 博士課程前期課程 理工学研究科 [Graduate School of Science and Technology] 先進エネルギーナノ工学専攻 [Graduate Department of Nanotechnology for Sustainable Energy] 計	2	30	-	60	修士 (理学) 修士 (工学) 修士 (国際自然科学)	平成31年4月 第1年次	兵庫県三田市 学園2丁目1番地	
	関西学院大学大学院 博士課程後期課程 理工学研究科 [Graduate School of Science and Technology] 先進エネルギーナノ工学専攻 [Graduate Department of Nanotechnology for Sustainable Energy] 計	3	2	-	6	博士 (理学) 博士 (工学)	平成31年4月 第1年次		
	計		2	-	6				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		理工学研究科 環境・応用化学専攻 (M) (35) (平成30年4月届出予定) 理工学研究科 環境・応用化学専攻 (D) (2) (平成30年4月届出予定) 理工学研究科 生命医化学専攻 (M) (30) (平成30年4月届出予定) 理工学研究科 生命医化学専攻 (D) (2) (平成30年4月届出予定)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	関西学院大学大学院 博士課程前期課程 理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻	34科目	1科目	1科目	36科目	30単位			
	関西学院大学大学院 博士課程後期課程 理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻	4科目	4科目	0科目	8科目	8単位			

教員組織の概要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等
			教授	准教授	講師	助教	計	
			人	人	人	人	人	人
新設分	関西学院大学大学院 博士課程前期課程 理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻		7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0) 34 (34)
	計		7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0) - (-)
	関西学院大学大学院 博士課程後期課程 理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻		7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0) 0 (0)
	計		7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0) - (-)
	関西学院大学大学院 博士課程前期課程		人	人	人	人	人	人
	神学研究科	神学専攻	6 (6)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	11 (11)	0 (0) 11 (11)
		文化歴史学専攻	19 (19)	4 (4)	0 (0)	4 (4)	27 (27)	0 (0) 32 (32)
	文学研究科	総合心理学専攻	14 (15)	3 (3)	0 (0)	1 (0)	18 (18)	0 (0) 23 (23)
		文学言語学専攻	26 (27)	2 (2)	0 (0)	3 (2)	31 (31)	0 (0) 25 (25)
		社会学専攻	28 (30)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	37 (39)	0 (0) 13 (13)
既設分	法学研究科	法学・政治学専攻	33 (35)	1 (1)	0 (0)	6 (4)	40 (40)	0 (0) 33 (33)
	経済学研究科	経済学専攻	29 (29)	7 (7)	5 (5)	0 (0)	41 (41)	0 (0) 13 (13)
	商学研究科	商学専攻	24 (24)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	30 (30)	0 (0) 11 (11)
	理工学研究科	数理科学専攻	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0) 5 (5)
		物理学専攻	9 (10)	2 (2)	1 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0) 29 (29)
		化学専攻	7 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (11)	0 (0) 40 (40)
		生命科学専攻	5 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0) 22 (22)
		情報科学専攻	8 (8)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0) 26 (26)
		人間システム工学専攻	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0) 13 (13)
		総合政策専攻	51 (51)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	53 (53)	0 (0) 4 (4)
	言語コミュニケーション文化研究科	言語コミュニケーション文化専攻	33 (36)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	45 (48)	0 (0) 34 (34)
	人間福祉研究科	人間福祉専攻	22 (22)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	23 (23)	0 (0) 0 (0)
	教育学研究科	教育学専攻	25 (26)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	29 (30)	0 (0) 13 (13)
	国際学研究科	国際学専攻	22 (22)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	24 (24)	0 (0) 1 (1)
	計		381 (393)	67 (67)	10 (9)	15 (11)	473 (480)	0 (0) - (-)
	博士課程前期課程 合計		388 (400)	70 (70)	11 (10)	15 (11)	484 (491)	0 (0) - (-)
	関西学院大学大学院 博士課程後期課程		人	人	人	人	人	人
	神学研究科	神学専攻	6 (6)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	11 (11)	0 (0) 0 (0)
		文化歴史学専攻	19 (19)	4 (4)	0 (0)	4 (4)	27 (27)	0 (0) 0 (0)
	文学研究科	総合心理学専攻	14 (15)	3 (3)	0 (0)	1 (0)	18 (18)	0 (0) 0 (0)
		文学言語学専攻	26 (27)	2 (2)	0 (0)	3 (2)	31 (31)	0 (0) 0 (0)
		社会学専攻	28 (30)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	37 (39)	0 (0) 13 (13)
	法学研究科	政治学専攻	13 (13)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	17 (17)	0 (0) 4 (4)
	法学研究科	基礎法学専攻	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0) 4 (4)
		民刑事法学専攻	15 (17)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	18 (18)	0 (0) 4 (4)
		経済学専攻	29 (29)	7 (7)	5 (5)	0 (0)	41 (41)	0 (0) 2 (2)
	商学研究科	商学専攻	24 (24)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	30 (30)	0 (0) 1 (1)

	学 部 等 の 名 称		専任教員等						兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
教員組織の概要	既設分	理工学研究科	人	人	人	人	人	人	人	
			10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	
			数理学専攻	9 (10)	2 (2)	1 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
			物理学専攻	7 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (11)	0 (0)	0 (0)
			化学専攻	4 (5)	4 (4)	1 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
			生命科学専攻	7 (8)	1 (1)	3 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
			情報科学専攻	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
		人間システム工学専攻	51 (51)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	53 (53)	0 (0)	4 (4)	
		総合政策研究科	33 (36)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	45 (48)	0 (0)	0 (0)	
		言語コミュニケーション文化研究科	22 (22)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	0 (0)	
		人間福祉研究科	25 (26)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	29 (30)	0 (0)	4 (4)	
		教育学研究科	22 (22)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	0 (0)	
	国際学研究科	17 (17)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	2 (2)		
	経営戦略研究科	398 (412)	67 (67)	12 (9)	15 (11)	492 (499)	0 (0)	- (-)		
	計	405 (419)	70 (70)	13 (10)	15 (11)	503 (510)	0 (0)	- (-)		
	博士課程後期課程 合計									
	既設分	関西学院大学大学院 専門職学位課程		人	人	人	人	人	人	
		司法研究科	法務専攻	9 (12)	10 (8)	0 (0)	0 (0)	19 (20)	0 (0)	50 (50)
			経営戦略研究科	経営戦略専攻	18 (18)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	25 (25)	0 (0)
		会計専門職専攻		10 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	24 (24)
専門職学位課程 合計			37 (40)	19 (17)	0 (0)	1 (1)	57 (58)	0 (0)	- (-)	
既設分		言語教育研究センター	0 (0)	1 (1)	30 (30)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	0 (0)	
		高等教育推進センター	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		共通教育センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		ハンズオン・ラーニングセンター	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
		産業研究所	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		日本語教育センター	0 (0)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	
		災害復興制度研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		国際教育・協力センター (国際教育プログラム室を含む)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	
		大学博物館	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		学長直属教員	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
		合計	9 (9)	7 (7)	38 (38)	1 (1)	55 (55)	0 (0)	- (-)	
		教員以外の職員の概要	職 種		専 任			兼 任		計
事 務 職 員			358 (358)			386 (386)		744 (744)		
技 術 職 員			13 (13)			0 (0)		13 (13)		
図 書 館 専 門 職 員			23 (23)			11 (11)		34 (34)		
そ の 他 の 職 員			5 (5)			0 (0)		5 (5)		
計			399 (399)			397 (397)		796 (796)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用			共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	267,458㎡	23,532㎡			- ㎡		290,990㎡		
	運 動 場 用 地	277,465㎡	9,812㎡			- ㎡		287,277㎡		
	小 計	544,923㎡	33,344㎡			- ㎡		578,267㎡		
	そ の 他	44,657㎡	4,098㎡			- ㎡		48,755㎡		
合 計	589,580㎡	37,442㎡			- ㎡		627,022㎡			

校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	聖和短期大学(必要面 積2,850㎡)と共用				
		242,790㎡ (242,790㎡)	19,166㎡ (19,166㎡)	365㎡ (365㎡)	262,321㎡ (262,321㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	257室	166室	281室	46室 (補助職員 45人)	13室 (補助職員 10人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻			24 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書費には電子ジャー ナル・データベースの 整備費(運用コスト含 む)を含む。		
	先進エネルギーナノ工学専攻	33,801 [11,782] (32,681 [11,531])	2,303 [1,177] (2,204 [1,147])	21,991 [20,863] (21,698 [20,585])	452 (430)	1,916 (1,916)	0 (0)			
	計	33,801 [11,782] (32,681 [11,531])	2,303 [1,177] (2,204 [1,147])	21,991 [20,863] (21,698 [20,585])	452 (430)	1,916 (1,916)	0 (0)			
図書館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		26,044㎡	2,634席		2,750,000冊					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		16,191㎡	—							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	図書費には電子ジャー ナル・データベースの 整備費(運用コスト含 む)を含む。	
		教員 1 人当り研究費等	3,971千円	3,981千円	3,982千円	—千円	—千円	—千円		
		共 同 研 究 費 等	7,463千円	7,463千円	7,463千円	—千円	—千円	—千円		
		図 書 購 入 費	11,635千円	11,635千円	11,635千円	—千円	—千円	—千円		
	設 備 購 入 費	35,591千円	13,964千円	13,964千円	13,964千円	—千円	—千円			
	理工学研究科先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程前期課程									
	学生 1 人当り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次			
		1,333千円	1,103千円	—千円	—千円	—千円	—千円			
	理工学研究科先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程後期課程									
	学生 1 人当り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次			
	1,333千円	1,103千円	1,103千円	—千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、寄付金収入、補助金収入、資産運用収入、資産売却収入を充当する。							
大 学 の 名 称		関西学院大学							既 設 大 学 等 の 状 況	
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度		所 在 地
関西学院大学		年	人	年次 人	人		倍			兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号
神学部		4	30	—	120	学士(神学)	1.04	昭和27年		
文学部							1.04			同上
文化歴史学科		4	275	—	1,100	学士(文学)	1.02	平成15年		
総合心理科学科		4	175	—	700	学士(文学)	1.02	平成15年		
文学言語学科		4	320	—	1,280	学士(文学)	1.06	平成15年		
社会学部										同上
社会学科		4	650	—	2,600	学士(社会学)	1.04	昭和35年		
法学部							1.03			同上
法律学科		4	520	—	2,080	学士(法学)	1.01	昭和23年		
政治学科		4	160	—	640	学士(法学)	1.12	昭和23年		
経済学部		4	680	—	2,720	学士(経済学)	1.04	昭和23年		同上
商学部		4	650	—	2,600	学士(商学)	1.03	昭和26年		同上
理工学部							0.97			兵庫県三田市 学園2丁目1番地
数理科学科		4	75	—	300	学士(理学)	1.01	平成21年		
物理学科		4	75	—	300	学士(理学)	1.03	昭和36年		
先進エネルギーナノ工学科		4	80	—	320	学士(工学)	0.96	平成27年		
化学科		4	75	—	300	学士(理学)	0.94	昭和36年		
環境・応用化学科		4	80	—	320	学士(工学)	0.98	平成27年		
生命科学科		4	80	—	320	学士(生命科学)	1.00	平成14年		
生命医化学科		4	80	—	320	学士 (生命医化学)	0.94	平成27年		
情報科学科		4	75	—	300	学士(情報科学)	1.07	平成14年		
人間システム工学科		4	80	—	320	学士(工学)	1.10	平成21年		

既設大学等の状況	大 学 の 名 称		関西学院大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地		
	総合政策学部 総合政策学科	4	245	年次 人 3年次 20	人 1,015	学士（総合政策）	1.03 1.03	平成7年	兵庫県三田市 学園2丁目1番地	H21年より学部 一括募集を開始 H28年度 入学定員増（5人）、 編入学定員減 （△15人） H28年度 入学定員増（5人）、 編入学定員減 （△5人）	
	メディア情報学科 都市政策学科	4 4	120 100	— — 3年次	480 400	学士（総合政策） 学士（総合政策）	1.03 1.03	平成14年 平成21年			
	国際政策学科	4	125	10	515	学士（総合政策）	1.03	平成21年			
	人間福祉学部 社会福祉学科 社会起業学科 人間科学科	4 4 4	130 70 100	— — —	520 280 400	学士（社会福祉学） 学士（社会起業） 学士（人間科学）	1.02 1.01 1.06 1.00	平成20年 平成20年 平成20年	兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号		
	教育学部 教育学科	4	350	3年次 5	1,410	学士（教育学）	1.03	平成25年	兵庫県西宮市 岡田山7番54号		
	国際学部 国際学科	4	300	—	1,200	学士（国際学）	1.03	平成22年	兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号		
	大 学 の 名 称		関西学院大学大学院								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地		
	関西学院大学大学院 博士課程 前期課程									兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号	
	神学研究科 神学専攻	2	10	—	20	修士（神学）	0.65	昭和27年	同上		
	文学研究科 文化歴史学専攻	2	22	—	44	修士（哲学） 修士（美学） 修士（芸術学） 修士（歴史学） 修士（地理学）	0.42 0.49	平成19年	同上		
	総合心理科学専攻	2	20	—	40	修士（心理科学） 修士（学校教育学）	0.45	平成19年	同上		
	文学言語学専攻	2	22	—	44	修士（文学） 修士（言語学）	0.33	平成19年	同上		
	社会学研究科 社会学専攻	2	12	—	24	修士（社会学）	0.49	昭和36年	同上		
	法学研究科 法学・政治学専攻	2	45	—	90	修士（法学）	0.29	平成16年	同上		
	経済学研究科 経済学専攻	2	30	—	60	修士（経済学）	0.20	昭和25年	同上		
	商学研究科 商学専攻	2	30	—	60	修士（商学） 修士（経営学） 修士（会計学） 修士（マーケティング） 修士（ファイナンス） 修士（ビジネス情報） 修士（国際ビジネス）	0.21	昭和28年	同上		

大 学 の 名 称		関西学院大学大学院							
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
理工学研究科 数理学専攻	2	10	—	20	修士（理学） 修士（工学）	1.08 0.95	平成21年	兵庫県三田市 学園2丁目1番地	
物理学専攻	2	22	—	44	修士（理学） 修士（工学） 修士 （国際自然科学）	1.63	昭和40年		
化学専攻	2	33	—	66	修士（理学） 修士（工学） 修士 （国際自然科学）	0.98	昭和40年		
生命科学専攻	2	35	—	70	修士（理学） 修士（工学） 修士 （国際自然科学）	0.99	平成16年		
情報科学専攻	2	22	—	44	修士（理学） 修士（工学） 修士 （国際自然科学）	0.92	平成18年		
人間システム工学専攻	2	25	—	50	修士（理学） 修士（工学）	1.08	平成25年		
総合政策研究科 総合政策専攻	2	50	—	100	修士（総合政策）	0.16	平成11年		同上
言語コミュニケーション文化研究科 言語コミュニケーション文化専攻	2	30	—	60	修士（言語科学） 修士 （言語文化学） 修士 （言語教育学） 修士 （日本語教育学）	0.71	平成13年	兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号	
人間福祉研究科 人間福祉専攻	2	8	—	16	修士（人間福祉）	0.87	平成20年	同上	
教育学研究科 教育学専攻	2	6	—	12	修士（教育学）	0.74	平成21年	兵庫県西宮市 岡田山7番54号	
国際学研究科 国際学専攻	2	6	—	12	修士（国際学）	0.49	平成26年	兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号	
関西学院大学大学院 博士課程 後期課程	年	人	年次 人	人		倍			
神学研究科 神学専攻	3	2	—	6	博士（神学）	0.50	昭和29年	兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号	
文学研究科 文化歴史学専攻	3	7	—	21	博士（哲学） 博士（美学） 博士（芸術学） 博士（歴史学） 博士（地理学）	0.58 0.37	平成19年	同上	
総合心理科学専攻	3	6	—	18	博士（心理学） 博士 （教育心理学）	0.88	平成19年		
文学言語学専攻	3	7	—	21	博士（文学） 博士（言語学）	0.52	平成19年		
社会学研究科 社会学専攻	3	4	—	12	博士（社会学）	1.00	昭和36年	同上	
法学研究科 政治学専攻 基礎法学専攻 民刑事法学専攻	3 3 3	2 2 2	— — —	6 6 6	博士（法学） 博士（法学） 博士（法学）	0.27 0.33 0.00 0.50	昭和34年 昭和29年 昭和38年	同上	
経済学研究科 経済学専攻	3	3	—	9	博士（経済学）	0.11	昭和29年	同上	
商学研究科 商学専攻	3	5	—	15	博士（商学）	0.40	昭和36年	同上	

大 学 の 名 称	関西学院大学大学院								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
既 設 大 学 等 の 状 況	理工学研究科 数理科学専攻	3	2	—	6	博士（理学） 博士（工学）	0.38 0.16	平成23年	兵庫県三田市 学園2丁目1番地
	物理学専攻	3	3	—	9	博士（理学） 博士（工学）	0.44	昭和42年	
	化学専攻	3	6	—	18	博士（理学） 博士（工学）	0.55	昭和42年	
	生命科学専攻	3	5	—	15	博士（理学） 博士（工学）	0.20	平成18年	
	情報科学専攻	3	2	—	6	博士（理学） 博士（工学）	0.33	平成18年	
	人間システム工学専攻	3	2	—	6	博士（理学） 博士（工学）	0.50	平成25年	
	総合政策研究科 総合政策専攻	3	5	—	15	博士（総合政策）	0.20	平成13年	同上
	言語コミュニケーション文化研究科 言語コミュニケーション文化専攻	3	3	—	9	博士 （言語コミュニケーション 文化）	0.66	平成15年	兵庫県西宮市 上ケ原一番町1番 155号
	人間福祉研究科 人間福祉専攻	3	5	—	15	博士（人間福祉）	0.73	平成20年	同上
	教育学研究科 教育学専攻	3	3	—	9	博士（教育学）	0.66	平成21年	兵庫県西宮市 岡田山7番54号
	国際学研究科 国際学専攻	3	2	—	6	博士（国際学）	0.50	平成26年	兵庫県西宮市 上ケ原一番町 1番155号
	経営戦略研究科 先端マネジメント専攻	3	4	—	12	博士 （先端マネジメント）	1.00	平成20年	同上
	関西学院大学大学院 専門職学位課程 司法研究科 法務専攻	3	30	—	110	法務博士 （専門職）	0.49	平成16年	同上
	経営戦略研究科 経営戦略専攻	2	100	—	200	経営管理修士 （専門職）	0.80	平成17年	大阪府大阪市北区 茶屋町19番19号 7F ロースタワー14階
	会計専門職専攻	2	70	—	140	会計修士 （専門職）	0.47	平成17年	兵庫県西宮市 上ケ原一番町 1番155号
大 学 の 名 称	聖和短期大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
	聖和短期大学	年	人	年次 人	人		倍		兵庫県西宮市
	保育科	2	150	—	300	短期大学士 （保育学）	1.01	昭和25年	岡田山7番54号
附属施設の概要		該当なし							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技を含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程前期課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
先進エ ネ ル ギ ー ナ ノ 工 学 専 攻 科 目	エネルギー半導体特論Ⅰ	1・2 前		2		○			1						隔年	
	エネルギー半導体特論Ⅱ	1・2 後		2		○			1						隔年	
	エネルギー半導体特論Ⅲ	1・2 前		2		○			1						隔年	
	エネルギー材料特論Ⅰ	1・2 後		2		○			1						隔年	
	エネルギー材料特論Ⅱ	1・2 前		2		○					1				隔年	
	エネルギー材料特論Ⅲ	1・2 後		2		○				1					隔年	
	エネルギー材料特論Ⅳ	1・2 前		2		○				1					隔年	
	ナノ物性特論Ⅰ	1・2 後		2		○				1					隔年	
	ナノ物性特論Ⅱ	1・2 前		2		○			1						隔年	
	ナノ物性特論Ⅲ	1・2 後		2		○			1						隔年	
	ナノ物性特論Ⅳ	1・2 前		2		○			1						隔年	
	ナノ物性解析特殊講義	1・2 前		1		○								兼1	集中/隔年	
	エネルギー半導体特殊講義	1・2 後		1		○								兼1	集中/隔年	
	ナノ物性特殊講義Ⅰ	1・2 後		1		○								兼1	集中/隔年	
	ナノ物性特殊講義Ⅱ	1・2 後		2		○			1						集中/※実習	
	物性物理学特論Ⅲ	1・2 後		2		○								兼1	隔年	
	物性物理学特論Ⅳ	1・2 後		2		○								兼1	隔年	
	物性物理学特論Ⅴ	1・2 前		2		○								兼1	隔年	
	物理学特論Ⅲ	1・2 後		2		○								兼1	隔年	
	知的財産特論	1・2 前		1		○								兼3	集中/ オムニバス	
	研究開発型ベンチャー創成	1・2 前		2		○								兼1	集中	
	国際自然科学特殊講義Ⅰ	1・2 後		2		○								兼1		
	国際自然科学特殊講義Ⅱ	1・2 前		2		○								兼1		
	国際自然科学特殊講義Ⅲ	1・2 後		2		○								兼1		
	国際自然科学特殊講義Ⅳ	1・2 後		2		○								兼1		
	国際自然科学特殊講義Ⅴ	1・2 前		2		○								兼1		
	国際自然科学特殊講義Ⅵ	1・2 後		2		○								兼12		
	国際自然科学特殊講義Ⅶ	1・2 前		2		○								兼1		
	国際自然科学特殊講義Ⅷ	1・2 後		2		○								兼11	隔年	
	国際自然科学特殊講義Ⅸ	1・2 前		2		○								兼1		
	国際自然科学特殊講義Ⅹ	1・2 後		2		○								兼1		
	国際自然科学特殊講義ⅩⅢ	1・2 前		2		○			7	3	1			兼1	隔年	
	国際自然科学特論Ⅰ	1・2 前		2		○								兼1		
	国際自然科学特論Ⅱ	1・2 後		2		○								兼1		
	文献演習	1～2 通	4					○		7	3	1				
	特別実験及び演習	1～2 通	12						○	7	3	1				※演習
小計 (36科目)		—	16	64	0	—			7	3	1	0	0	兼34	—	
合計 (36科目)		—	16	64	0	—			7	3	1	0	0	兼34	—	
学位又は称号		修士(理学)、修士(工学)、修士(国際自然科学)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
博士課程前期課程に2年以上在学し、必修科目「特別実験及び演習」12単位、「文献演習」4単位と選択科目14単位の合計30単位以上を修得し、研究指導を受けた上、専門外国語学力の認定、修士論文の審査と口頭試問による最終試験に合格することを同課程の修了要件とする。								1 学年の学期区分				2 学期				
								1 学期の授業期間				15週				
								1 時限の授業時間				90分				

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程後期課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
先進 エネ ルギ ー ナノ 工 学 専 攻 科 目	研究計画法ⅠA	1 前	1			○			7	3	1			
	研究計画法ⅠB	1 後	1			○			7	3	1			
	研究計画法ⅡA	2 前	1			○			7	3	1			
	研究計画法ⅡB	2 後	1			○			7	3	1			
	論文作成演習ⅠA	1 前	1				○		7	3	1			
	論文作成演習ⅠB	1 後	1				○		7	3	1			
	論文作成演習ⅡA	2 前	1				○		7	3	1			
	論文作成演習ⅡB	2 後	1				○		7	3	1			
	(特別研究)	1～3 通	—	—	—		○		7	3	1			
小計 (8科目)		—	8	0	0	—			7	3	1	0	0	兼0 —
合計 (8科目)		—	8	0	0	—			7	3	1	0	0	兼0 —
学位又は称号		博士(理学)、博士(工学)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係						
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等						
博士課程に5年以上(博士課程前期課程又は修士課程を修了した者)にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む)在学し、先進エネルギーナノ工学専攻科目の必修科目の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、専門外国語学力の認定、博士論文の審査及び口頭試問による最終試験に合格することを、同課程の修了要件とする。ただし、在学期間に関しては、とくに優れた研究業績をあげた者については、博士課程に3年(博士課程前期課程2年又は修士課程2年を含む)以上在学すれば足りるものとする。								1 学年の学期区分				2学期		
								1 学期の授業期間				15週		
								1 時限の授業時間				90分		

教 育 課 程 等 の 概 要														
(理工学部 先進エネルギーナノ工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合 教育 科目	キリスト教学A	1 前	2			○								兼1
	キリスト教学B	1 後	2			○								兼1
	小計 (2科目)	—	4	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼1 —
	英語リーディングⅠA	1 前	1				○							兼9
	英語リーディングⅠB	1 後	1				○							兼9
	英語ライティングⅠA	1 前	1				○							兼14
	英語ライティングⅠB	1 後	1				○							兼14
	英語コミュニケーションⅠA	1 前	1				○							兼9
	英語コミュニケーションⅠB	1 後	1				○							兼9
	英語リーディングⅡA	2 前	1				○							兼9
	英語リーディングⅡB	2 後	1				○							兼9
	英語ライティングⅡA	2 前	1				○							兼13
	英語ライティングⅡB	2 後	1				○							兼13
	英語コミュニケーションⅡA	2 前	1				○							兼7
	英語コミュニケーションⅡB	2 後	1				○							兼7
	小計 (12科目)	—	12	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼24 —
	ドイツ語読解Ⅰ	1 前		1			○							兼1
	ドイツ語読解Ⅱ	1 後		1			○							兼1
	フランス語読解Ⅰ	1 前		1			○							兼1
	フランス語読解Ⅱ	1 後		1			○							兼1
	ドイツ語文法Ⅰ	1 前		1			○							兼1
	ドイツ語文法Ⅱ	1 後		1			○							兼1
	フランス語文法Ⅰ	1 前		1			○							兼1
	フランス語文法Ⅱ	1 後		1			○							兼1
	小計 (8科目)	—	0	8	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼4 —
	哲学	1 前		2		○								兼1
	論理学	1 前		2		○								兼1
	西洋史	1 後		2		○								兼1
	心理学	1 前		2		○								兼1
	社会学	1 後		2		○								兼1
	法学	1 前		2		○								兼1
	日本国憲法	1 前		2		○								兼1
	経済学	1 前		2		○								兼1
	自然科学史	1 前		2		○								兼1
	科学倫理	1 後		2		○								兼1
	環境学	1 後		2		○								兼4 オムニバス
	サイバー社会入門	1 前		2		○								兼1
	芸術と技術	1 後		2		○								兼1
	地誌学	1 前		2		○								兼1
	小計 (14科目)	—	0	28	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼16 —

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学部 先進エネルギーナノ工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育 科目	先進エネルギーナノ工学入門	1 前	2				○		7	3	1			※講義 兼2	
	ものづくり理工学実験Ⅰ	3 前	3					○	5	3	1				
	ものづくり理工学実験Ⅱ	3 後	3					○	5	3	1			※演習 兼1	
	外国書講読	4 通	2				○		8	3	1				
	輪講	4 通	2				○		8	3	1				
	卒業実験及び演習	4 通	8					○	8	3	1				
	小計（6科目）	—	20	0	0	—			8	3	1	0	0	兼2	
	基礎 科目	線形代数学Ⅰ	1 前	2		○								兼1	
		微積分学Ⅰ	1 前	2		○								兼1	
		力学Ⅰ	1 後	2		○			1						
		力学Ⅱ	2 前	2		○			1						
		物理数学Ⅰ	2 前	2		○			1						
		物理数学Ⅱ	2 後	2		○			1						
		物理数学Ⅲ	3 前	2		○			1						
		電磁気学Ⅰ	2 前	2		○					1				
		電磁気学Ⅱ	2 後	2		○				1					
		電磁気学演習Ⅰ	2 前	2			○				1				
		電磁気学演習Ⅱ	2 後	2			○			1					
		構造物性学	3 前	2		○				1					
		固体電子論	3 前	2		○			1						
	小計（13科目）	—	0	26	0	—			4	1	1	0	0	兼1	—
	実験 科目	基礎化学実験Ⅰ	1 後	2				○						兼14	—
		基礎物理学実験Ⅰ	2 前	2				○	2	1					
		基礎物理学実験Ⅱ	2 後	2				○	1		1				
	小計（3科目）	—	0	6	0	—			3	1	1	0	0	兼14	
	発展 科目	ナノケミストリーⅠ	1 後	2		○				1					
		ナノケミストリーⅡ	2 前	2		○			1						
		ナノケミストリーⅢ	3 前	2		○			1						
		エネルギー材料熱力学	2 後	2		○				1					
		エネルギー材料熱力学演習	2 後	2			○			1					
		ナノ物性量子力学Ⅰ	2 後	2		○			1						
		ナノ物性量子力学Ⅱ	3 前	2		○			1						
		ナノ物性量子力学演習Ⅰ	2 後	2			○		1						
		ナノ物性量子力学演習Ⅱ	3 前	2			○		1						
		統計熱力学	3 前	2		○				1					
	小計（10科目）	—	0	20	0	—			3	2	0	0	0	兼0	—
	先端 科目	物質設計ナノ工学	3 後	2		○			1						
		プロセス設計ナノ工学	3 後	2		○				1					
		エネルギー変換と電気化学	3 後	2		○			1						
		エネルギー電気・電子回路工学	3 後	2		○			1						
		エネルギー半導体工学	3 後	2		○			1						
		極限環境プロセッシング	4 前	2		○			1						
		ナノスケール分析科学	4 前	2		○			1						
		先進エネルギーナノ工学詳論	4 前	2		○			8	3	1			ホームベース	
	小計（8科目）	—	0	16	0	—			8	3	1	0	0	兼0	—

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理工学部 先進エネルギーナノ工学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専門教育科目	境界領域科目	物理学序論	1	前		2		○							兼1	
		基礎化学A	1	前		2		○							兼1	
		基礎化学B	1	後		2		○							兼1	
		基礎化学C	1	前		2		○							兼1	
		線形代数学Ⅱ	1	後		2		○							兼1	
		線形代数学Ⅲ	2	前		2		○							兼1	
		微積分学Ⅱ	1	後		2		○							兼1	
		デモンストレーション物理学Ⅰ	1	後		2		○							兼1	
		デモンストレーション物理学Ⅱ	2	前		2		○							兼1	
		小計（9科目）	—	0	18	0		—		0	0	0	0	0	兼9	—
自由選択科目	生命科学入門実験	1	前		2										兼8	
	生命科学Ⅰ	1	前		2		○								兼1	
	生命科学Ⅱ	1	後		2		○								兼1	
	環境政策論	2	前		2		○								兼1	
	基礎地学Ⅰ	2	前		2		○								兼2	
	基礎地学Ⅱ	2	後		2		○								兼2	
	コンピュータ演習A	1	前・後		2				○						兼3	
	コンピュータ演習B	3	前		2				○						兼1	
	環境経済学	2	後		2		○								兼1	
	地学実験A	3	前		1									○	兼2	集中
	科学技術英語A	3	前		2				○						兼5	
	科学技術英語B	3	後		2				○						兼6	
	千刈集中英語実習	3	前		2									○	兼11	集中
	量子力学Ⅲ	3	後		2		○								兼1	
	小計（14科目）	—	0	27	0		—		0	0	0	0	0	兼33	—	
合計（99科目）		—	36	149	0		—		8	3	1	0	0	兼86	—	
学位又は称号		学士（工学）			学位又は学科の分野				工学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
総合教育科目32単位、専門教育科目の必修科目20単位、基礎科目20単位、実験科目4単位、発展科目14単位、先端科目10単位、境界領域科目10単位、自由選択科目及びその他理工学部開講専門教育科目のうちから18単位、合計128単位以上を修得すること。なお、各学年及び学期の履修単位数制限は、1年春24秋24、2年春24秋25、3年春25秋24、4年春25秋24単位とする。								1 学年の学期区分				2 学期				
								1 学期の授業期間				15 週				
								1 時限の授業時間				90 分				

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理工学研究科 数理科学専攻 博士課程前期課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
数理科学専攻科目	代数学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1					兼1 兼1	隔年	
	代数学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1						隔年	
	代数幾何学特論Ⅰ	1・2後		2		○									隔年	
	代数幾何学特論Ⅱ	1・2後		2		○									隔年	
	微分幾何学特論Ⅰ	1・2後		2		○			1						隔年	
	微分幾何学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1						隔年	
	多様体特論Ⅰ	1・2前		2		○			1						隔年	
	多様体特論Ⅱ	1・2前		2		○			1						隔年	
	解析学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1						隔年	
	解析学特論Ⅱ	1・2前		2		○			1						隔年	
	関数方程式特論Ⅰ	1・2前		2		○			1						隔年	
	関数方程式特論Ⅱ	1・2前		2		○			1						隔年	
	確率論特論Ⅰ	1・2後		2		○			1						隔年	
	確率論特論Ⅱ	1・2後		2		○			1						隔年	
	数値解析特論Ⅰ	1・2後		2		○			1						隔年	
	数値解析特論Ⅱ	1・2後		2		○			1						隔年	
	現象数学特論Ⅰ	1・2後		2		○				1					隔年	
	現象数学特論Ⅱ	1・2後		2		○				1					隔年	
	非線形問題特論Ⅰ	1・2後		2		○			1						隔年	
	非線形問題特論Ⅱ	1・2後		2		○			1						隔年	
	金融・保険数学特論Ⅰ	1・2後		2		○			1						隔年	
	金融・保険数学特論Ⅱ	1・2前		2		○			1						隔年	
	数理科学特殊講義Ⅰ	1・2前		1		○									兼1	集中
	数理科学特殊講義Ⅱ	1・2前		1		○									兼1	集中
	数理科学特殊講義Ⅲ	1・2前		1		○									兼1	集中
	数理科学特殊講義Ⅳ	1・2前		1		○									兼1	集中
	数理科学特殊講義Ⅴ	1・2前		1		○									兼1	集中
	数理科学特殊講義Ⅵ	1・2前		1		○									兼1	集中
	数理科学特殊講義Ⅶ	1・2前		1		○									兼1	集中
	数理科学特殊講義Ⅷ	1・2前		1		○									兼1	集中
	数理科学特殊講義Ⅸ	1・2前		1		○								兼1	集中	
	数理科学特殊講義Ⅹ	1・2前		1		○								兼1	集中	
	研究開発型ベンチャー創成	1・2後		2		○								兼1	集中	
文献演習	1～2通	4					○		10	1						
数理科学基礎研究	1～2通	12					○		10	1						
海外理工学アドバンスプログラムA	1・2		1			○								不定期開講		
海外理工学アドバンスプログラムB	1・2		2			○								不定期開講		
海外理工学アドバンスプログラムC	1・2		3			○								不定期開講		
小計（38科目）		—	16	62	0	—			10	1	0	0	0	兼5	—	
合計（38科目）		—	16	62	0	—			10	1	0	0	0	兼5	—	
学位又は称号		修士(理学)、修士（工学）		学位又は学科の分野				理学関係、工学関係								
卒業要件及び履修方法								授 業 期 間 等								
博士課程前期課程に2年以上在学し、必修科目「数理科学基礎研究」12単位、「文献演習」4単位と選択科目14単位の合計30単位以上を修得し、研究指導を受けた上、専門外国語学力の認定、当該研究科の行う論文審査と口頭試験による最終試験に合格することを同課程の修了要件とする。 特に優れた研究業績をあげた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。								1学年の学期区分				2学期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(理工学研究科 数理科学専攻 博士課程後期課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
数理科学 専攻科目	研究計画法ⅠA	1 前	1			○			10	1				
	研究計画法ⅠB	1 後	1			○			10	1				
	研究計画法ⅡA	2 前	1			○			10	1				
	研究計画法ⅡB	2 後	1			○			10	1				
	論文作成演習ⅠA	1 前	1				○		10	1				
	論文作成演習ⅠB	1 後	1				○		10	1				
	論文作成演習ⅡA	2 前	1				○		10	1				
	論文作成演習ⅡB	2 後	1				○		10	1				
	(特別研究)	1～3 通	—	—	—		○		10	1				
小計(8科目)		—	8	0	0	—			10	1	0	0	0	兼0 —
合計(8科目)		—	8	0	0	—			10	1	0	0	0	兼0 —
学位又は称号		博士(理学)、博士(工学)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係						
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等						
博士課程に5年以上(博士課程前期課程又は修士課程を修了した者)にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む)在学し、数理科学専攻科目の必修科目の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、専門外国語学力の認定、博士論文の審査及び口頭試問による最終試験に合格することを、同課程の修了要件とする。ただし、在学期間に関しては、とくに優れた研究業績をあげた者については、博士課程に3年(博士課程前期課程2年又は修士課程2年を含む)以上在学すれば足りるものとする。								1 学年の学期区分				2 学期		
								1 学期の授業期間				15 週		
								1 時限の授業時間				90 分		

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(理工学研究科 物理学専攻 博士課程前期課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
物理学 専攻 科目	量子力学特論Ⅰ	1・2 前		2		○			1					兼1
	量子力学特論Ⅱ	1・2 後		2		○			1					
	量子力学特論Ⅲ	1・2 後		2		○								
	量子力学特論Ⅳ	1・2 前		2		○			1					
	相対論特論	1・2		2		○								兼1
	統計力学特論	1・2 後		2		○			1					
	物性物理学特論Ⅰ	1・2 後		2		○								
	物性物理学特論Ⅱ	1・2 後		2		○			1					
	物性物理学特論Ⅲ	1・2 前		2		○			1					兼1
	物性物理学特論Ⅳ	1・2 後		2		○			1					
	物性物理学特論Ⅴ	1・2 後		2		○				1				
	物性物理学特論Ⅵ	1・2 前		2		○			1					
	回折結晶学特論Ⅰ	1・2 前		2		○			1					兼1
	回折結晶学特論Ⅱ	1・2 前		2		○			1					
	物理数学特論	1・2		2		○								
	生物物理学特論	1・2		2		○								
	宇宙物理学特論Ⅰ	1・2 後		2		○			1					兼1
	宇宙物理学特論Ⅱ	1・2 前		2		○				1				
	宇宙物理学特論Ⅲ	1・2 前		2		○			1					
	宇宙物理学特論Ⅳ	1・2		2		○								
	研究学	1・2 後		2		○			1					兼1
	物理学特論Ⅰ	1・2 後		2		○								
	物理学特論Ⅱ	1・2 前		2		○			1					
	物理学特論Ⅲ	1・2 後		2		○			1					
	物理学特論Ⅳ	1・2 前		2		○			1					兼1
	物理学特論Ⅴ	1・2 後		2		○				1				
	物理学特論Ⅵ	1・2 前		2		○			1					
	物理学特論Ⅶ	1・2		2		○								
	物理学特論Ⅷ	1・2 前		2		○			1					兼1
	物理学特論Ⅸ	1・2 前		2		○				1				
	物理学特殊講義Ⅰ	1・2		2		○								
	物理学特殊講義Ⅱ	1・2		2		○								
	物理学特殊講義Ⅲ	1・2		2		○								兼1
	物理学特殊講義Ⅳ	1・2 前		2		○			1					
	物理学特殊講義Ⅴ	1・2 前		2		○								
	物理学特殊講義Ⅵ	1・2		2		○								
	物理学特殊講義Ⅶ	1・2		1		○								兼1
	物理学特殊講義Ⅷ	1・2 前		1		○								
	物理学特殊講義Ⅸ	1・2 前		1		○								
	物理学特殊講義Ⅹ	1・2 前		1		○								
	物理学特殊講義ⅩⅠ	1・2		1		○								兼1
	物理学特殊講義ⅩⅡ	1・2		1		○								
	物理学特殊講義ⅩⅢ	1・2 前		1		○								
	物理学特殊講義ⅩⅣ	1・2 前		1		○								
	物理学特殊講義ⅩⅤ	1・2		1		○								兼1
	物理学特殊講義ⅩⅥ	1・2		1		○								
	知的財産特論	1・2 前		1		○								
	研究開発型ベンチャー創成	1・2 後		2		○								

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学研究科 物理学専攻 博士課程前期課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
物理学 専攻科目	国際自然科学特殊講義Ⅰ	1・2 後		2		○								兼1	
	国際自然科学特殊講義Ⅱ	1・2 前		2		○								兼1	
	国際自然科学特殊講義Ⅲ	1・2 後		2		○								兼1	
	国際自然科学特殊講義Ⅳ	1・2 後		2		○								兼1	
	国際自然科学特殊講義Ⅴ	1・2 前		2		○								兼1	
	国際自然科学特殊講義Ⅵ	1・2 後		2		○								兼13	
	国際自然科学特殊講義Ⅶ	1・2 前		2		○								兼3	
	国際自然科学特殊講義Ⅷ	1・2 後		2		○			8	2				兼1	
	国際自然科学特殊講義Ⅸ	1・2 前		2		○								兼1	
	国際自然科学特殊講義Ⅹ	1・2 後		2		○								兼1	
	国際自然科学特殊講義ⅩⅠ	1・2		1		○								不定期開講	
	国際自然科学特殊講義ⅩⅡ	1・2		1		○								不定期開講	
	国際自然科学特殊講義ⅩⅢ	1・2 前		2		○			8	3	1			隔年	
	国際自然科学特殊講義ⅩⅣ	1・2		2		○								不定期開講	
	国際自然科学特殊講義ⅩⅤ	1・2		2		○								不定期開講	
	国際自然科学特殊講義ⅩⅥ	1・2		1		○								不定期開講	
	国際自然科学特論Ⅰ	1・2 後		2		○								兼1	
	国際自然科学特論Ⅱ	1・2 前		2		○								兼1	
	文献演習	1～2 通	4					○		18	5	1			
	特別実験及び演習	1～2 通	12						○	18	5	1			※演習
海外理工学アドバンスプログラムA	1・2		1			○								不定期開講	
海外理工学アドバンスプログラムB	1・2		2			○								不定期開講	
海外理工学アドバンスプログラムC	1・2		3			○								不定期開講	
小計 (71科目)		—	16	124	0	—			18	5	1	0	0	兼29 —	
合計 (71科目)		—	16	124	0	—			18	5	1	0	0	兼29 —	
学位又は称号		修士(理学)、修士(工学)、 修士(国際自然科学)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係							
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授 業 期 間 等							
博士課程前期課程に2年以上在学し、必修科目「特別実験及び演習」12単位、「文献演習」4単位と選択科目14単位の合計30単位以上を修得し、研究指導を受けた上、専門外国語学力の認定、修士論文の審査と口頭試問による最終試験に合格することを同課程の修了要件とする。								1 学年の学期区分					2学期		
								1 学期の授業期間					15週		
								1 時限の授業時間					90分		

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学研究科 物理学専攻 博士課程後期課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
物理学 専攻科目	研究計画法ⅠA	1 前	1			○			18	5	1				
	研究計画法ⅠB	1 後	1			○			18	5	1				
	研究計画法ⅡA	2 前	1			○			18	5	1				
	研究計画法ⅡB	2 後	1			○			18	5	1				
	論文作成演習ⅠA	1 前	1				○		18	5	1				
	論文作成演習ⅠB	1 後	1				○		18	5	1				
	論文作成演習ⅡA	2 前	1				○		18	5	1				
	論文作成演習ⅡB	2 後	1				○		18	5	1				
	(特別研究)	1～3 通	—	—	—		○		18	5	1				
小計 (8科目)		—	8	0	0	—			18	5	1	0	0	兼0 —	
合計 (8科目)		—	8	0	0	—			18	5	1	0	0	兼0 —	
学位又は称号		博士 (理学)、博士 (工学)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係							
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等							
博士課程に5年以上(博士課程前期課程又は修士課程を修了した者)にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む)在学し、物理学専攻科目の必修科目の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、専門外国語学力の認定、博士論文の審査及び口頭試問による最終試験に合格することを、同課程の修了要件とする。ただし、在学期間に関しては、とくに優れた研究業績をあげた者については、博士課程に3年(博士課程前期課程2年又は修士課程2年を含む)以上在学すれば足りるものとする。								1 学年の学期区分				2学期			
								1 学期の授業期間				15週			
								1 時限の授業時間				90分			

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(理工学研究科 化学専攻 博士課程前期課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
化学 専攻 科目	解析系化学特論Ⅰ	1・2 前		2		○			1					隔年
	解析系化学特論Ⅱ	1・2 後		2		○			1					隔年
	物理化学特論Ⅲ	1・2 前		2		○			1					隔年
	解析系化学特論Ⅳ	1・2 前		2		○					1			隔年
	物理化学特論Ⅴ	1・2 前		2		○			1					隔年
	物理化学特論Ⅵ	1・2 後		2		○			1					隔年
	解析系化学特論Ⅴ	1・2 後		2		○			1					隔年
	無機化学特論Ⅱ	1・2 前		2		○			1					隔年
	合成系化学特論Ⅳ	1・2 前		2		○			1					隔年
	合成系化学特論Ⅴ	1・2 後		2		○				1				隔年
	分析化学特論Ⅰ	1・2 後		2		○			1					隔年
	分析化学特論Ⅱ	1・2 後		2		○			1					隔年
	合成系化学特論Ⅰ	1・2 前		2		○			1					隔年
	合成系化学特論Ⅱ	1・2 前		2		○			1					隔年
	合成系化学特論Ⅲ	1・2 後		2		○			1					隔年
	有機化学特論Ⅳ	1・2 後		2		○			1					隔年
	有機化学特論Ⅴ	1・2 後		2		○			1					隔年
	有機化学特論Ⅵ	1・2 前		2		○			1					隔年
	化学特論Ⅰ	1・2 後		2		○			1					隔年
	解析系化学特論Ⅲ	1・2 前		2		○				1				隔年
	化学特殊講義Ⅰ	1・2		1		○								不定期開講
	化学特殊講義Ⅱ	1・2		1		○								不定期開講
	化学特殊講義Ⅲ	1・2		1		○								不定期開講
	化学特殊講義Ⅳ	1・2		1		○								不定期開講
	化学特殊講義Ⅴ	1・2		1		○								不定期開講
	化学特殊講義Ⅵ	1・2		1		○								不定期開講
	化学特殊講義Ⅶ	1・2		1		○								不定期開講
	化学特殊講義Ⅷ	1・2		1		○								不定期開講
	化学特殊講義Ⅸ	1・2		1		○								不定期開講
	化学特殊講義Ⅹ	1・2		1		○								不定期開講
	化学特殊講義ⅩⅠ	1・2 前		1		○							兼1	集中
	化学特殊講義ⅩⅡ	1・2 前		1		○							兼1	集中
	化学特殊講義ⅩⅢ	1・2 前		1		○							兼1	集中
	化学特殊講義ⅩⅣ	1・2 前		1		○							兼1	集中
	化学特殊講義ⅩⅤ	1・2 前		1		○							兼1	集中
	化学特殊講義ⅩⅥ	1・2 前		1		○							兼1	集中
	化学特殊講義ⅩⅦ	1・2		1		○								不定期開講
	化学特殊講義ⅩⅧ	1・2		1		○								不定期開講
	化学特殊講義ⅩⅨ	1・2		1		○								不定期開講
	化学特殊講義ⅩⅩ	1・2		1		○								不定期開講
	知的財産特論	1・2 前		1		○							兼3	集中 /オムニバス
	研究開発型ベンチャー創成	1・2 後		2		○							兼1	集中

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理工学研究科 化学専攻 博士課程前期課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
化学 専攻 科目	国際自然科学特殊講義Ⅰ	1・2 後		2		○									兼1	
	国際自然科学特殊講義Ⅱ	1・2 前		2		○									兼1	
	国際自然科学特殊講義Ⅲ	1・2 後		2		○									兼1	
	国際自然科学特殊講義Ⅳ	1・2 後		2		○									兼1	
	国際自然科学特殊講義Ⅴ	1・2 前		2		○									兼1	
	国際自然科学特殊講義Ⅵ	1・2 後		2		○									兼13	
	国際自然科学特殊講義Ⅶ	1・2 前		2		○			1						兼2	
	国際自然科学特殊講義Ⅷ	1・2 後		2		○									兼11	
	国際自然科学特殊講義Ⅸ	1・2 前		2		○									兼1	
	国際自然科学特殊講義Ⅹ	1・2 後		2		○									兼1	
	国際自然科学特殊講義ⅩⅠ	1・2		1		○									不定期開講	
	国際自然科学特殊講義ⅩⅡ	1・2		1		○									不定期開講	
	国際自然科学特殊講義ⅩⅢ	1・2 前		2		○									兼12 隔年	
	国際自然科学特殊講義ⅩⅣ	1・2		2		○									不定期開講	
	国際自然科学特殊講義ⅩⅤ	1・2		2		○									不定期開講	
	国際自然科学特殊講義ⅩⅥ	1・2		1		○									不定期開講	
	国際自然科学特論Ⅰ	1・2 後		2		○									兼1	
	国際自然科学特論Ⅱ	1・2 前		2		○									兼1	
	文献演習	1～2 通	4					○		17	2	1				
	特別実験及び演習	1～2 通	12						○	17	2	1				※演習
	海外理工学アドバンスプログラムA	1・2		1		○										不定期開講
	海外理工学アドバンスプログラムB	1・2		2		○										不定期開講
	海外理工学アドバンスプログラムC	1・2		3		○										不定期開講
小計 (65科目)		—	16	102	0	—			17	2	1	0	0	兼40	—	
合計 (65科目)		—	16	102	0	—			17	2	1	0	0	兼40	—	
学位又は称号		修士(理学)、修士(工学)、 修士(国際自然科学)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係								
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等								
博士課程前期課程に2年以上在学し、必修科目「特別実験及び演習」12単位、「文献演習」4単位と選択科目14単位の合計30単位以上を修得し、研究指導を受けた上、専門外国語学力の認定、修士論文の審査と口頭試問による最終試験に合格することを同課程の修了要件とする。								1 学年の学期区分				2学期				
								1 学期の授業期間				15週				
								1 時限の授業時間				90分				

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学研究科 化学専攻 博士課程後期課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
化学 専攻 科目	研究計画法ⅠA	1 前	1			○			17	2	1				
	研究計画法ⅠB	1 後	1			○			17	2	1				
	研究計画法ⅡA	2 前	1			○			17	2	1				
	研究計画法ⅡB	2 後	1			○			17	2	1				
	論文作成演習ⅠA	1 前	1				○		17	2	1				
	論文作成演習ⅠB	1 後	1				○		17	2	1				
	論文作成演習ⅡA	2 前	1				○		17	2	1				
	論文作成演習ⅡB	2 後	1				○		17	2	1				
	(特別研究)	1～3 通	—	—	—		○		17	2	1				
小計 (8科目)		—	8	0	0	—			17	2	1	0	0	兼0	—
合計 (8科目)		—	8	0	0	—			17	2	1	0	0	兼0	—
学位又は称号		博士 (理学)、博士 (工学)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係							
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法							授 業 期 間 等								
博士課程に5年以上(博士課程前期課程又は修士課程を修了した者)にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む)在学し、化学専攻科目の必修科目の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、専門外国語学力の認定、博士論文の審査及び口頭試問による最終試験に合格することを、同課程の修了要件とする。ただし、在学期間に関しては、とくに優れた研究業績をあげた者については、博士課程に3年(博士課程前期課程2年又は修士課程2年を含む)以上在学すれば足りるものとする。							1 学年の学期区分				2学期				
							1 学期の授業期間				15週				
							1 時限の授業時間				90分				

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(理工学研究科 生命科学専攻 博士課程前期課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
生 命 科 学 専 攻 科 目	細胞生物学特論	1・2 後		2		○			1					隔年
	構造生物学	1・2 後		2		○			1					隔年
	環境応答分子論	1・2 後		2		○			1					隔年
	細胞周期学特論	1・2 前		2		○			1					隔年
	植物環境生理学特論	1・2 前		2		○			1					隔年
	生理学特論	1・2 前		2		○			1					隔年
	環境微生物学特論	1・2 後		2		○			1					隔年
	発生生物学特論	1・2 前		2		○				1				隔年
	器官形成学特論	1・2 後		2		○			1					隔年
	免疫学特論	1・2 後		2		○				1				隔年
	バイオインフォマティクス特論	1・2 前		2		○			1					隔年
	分子系統進化学特論	1・2 前		2		○							兼2	隔年 /オムニバス
	時間生物学特論	1・2 前		2		○			1					隔年
	植物分子生物学特論	1・2 後		2		○				1				隔年
	理論神経科学特論	1・2 後		2		○				1				隔年
	数理生体医工学	1・2 後		2		○				1				隔年
	生命科学特殊講義Ⅰ	1・2 前		1		○							兼1	隔年
	生命科学特殊講義Ⅱ	1・2 前		1		○							兼1	集中
	生命科学特殊講義Ⅲ	1・2		1		○								不定期開講
	生命科学特殊講義Ⅳ	1・2		1		○								不定期開講
	生命科学特殊講義Ⅴ	1・2		1		○								不定期開講
	生命科学特殊講義Ⅵ	1・2		1		○								不定期開講
	生命科学特殊講義Ⅶ	1・2		1		○								不定期開講
	生命科学特殊講義Ⅷ	1・2		1		○								不定期開講
	生命科学特殊講義Ⅸ	1・2		2		○								不定期開講
	数理生物学特論	1・2 前		2		○			1					隔年
	化学生態学特論	1・2 後		2		○				1				隔年
	生物間相互作用特論	1・2 前		2		○				1				隔年
	知的財産特論	1・2 前		1		○							兼3	集中 /オムニバス
	研究開発型ベンチャー創成	1・2 後		2		○							兼1	集中
	国際自然科学特殊講義Ⅰ	1・2 後		2		○							兼1	
	国際自然科学特殊講義Ⅱ	1・2 前		2		○							兼1	
	国際自然科学特殊講義Ⅲ	1・2 後		2		○							兼1	
	国際自然科学特殊講義Ⅳ	1・2 後		2		○							兼1	
	国際自然科学特殊講義Ⅴ	1・2 前		2		○							兼1	
	国際自然科学特殊講義Ⅵ	1・2 後		2		○			7	6				
	国際自然科学特殊講義Ⅶ	1・2 前		2		○			1				兼2	
	国際自然科学特殊講義Ⅷ	1・2 後		2		○							兼11	
	国際自然科学特殊講義Ⅸ	1・2 前		2		○							兼1	
	国際自然科学特殊講義Ⅹ	1・2 後		2		○							兼1	
	国際自然科学特殊講義ⅩⅠ	1・2		1		○								不定期開講
	国際自然科学特殊講義ⅩⅡ	1・2		1		○								不定期開講
	国際自然科学特殊講義ⅩⅢ	1・2 前		2		○							兼12	隔年
	国際自然科学特殊講義ⅩⅣ	1・2		2		○								不定期開講
	国際自然科学特殊講義ⅩⅤ	1・2		2		○								不定期開講
	国際自然科学特殊講義ⅩⅥ	1・2		1		○								不定期開講

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学研究科 生命科学専攻 博士課程前期課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
生命科学 専攻科目	国際自然科学特論Ⅰ	1・2 後		2		○								兼1 兼1 ※演習 不定期開講 不定期開講 不定期開講	
	国際自然科学特論Ⅱ	1・2 前		2		○									
	文献演習	1～2 通	4				○		11	7					
	特別実験及び演習	1～2 通	12					○	11	7					
	海外理工学アドバンスプログラムA	1・2		1		○									
	海外理工学アドバンスプログラムB	1・2		2		○									
	海外理工学アドバンスプログラムC	1・2		3		○									
小計 (53科目)		—	16	90	0	—			11	7	0	0	0	兼22	—
合計 (53科目)		—	16	90	0	—			11	7	0	0	0	兼22	—
学位又は称号		修士(理学)、修士(工学)、 修士(国際自然科学)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
博士課程前期課程に2年以上在学し、必修科目「特別実験及び演習」12単位、「文献演習」4単位と選択科目14単位の合計30単位以上を修得し、研究指導を受けた上、専門外国語学力の認定、修士論文の審査と口頭試問による最終試験に合格することを同課程の修了要件とする。								1 学年の学期区分				2学期			
								1 学期の授業期間				15週			
								1 時限の授業時間				90分			

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理工学研究科 生命科学専攻 博士課程後期課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
生 命 科 学 専 攻 科 目	研究計画法ⅠA	1 前	1			○			11	7					兼0	—
	研究計画法ⅠB	1 後	1			○			11	7						
	研究計画法ⅡA	2 前	1			○			11	7						
	研究計画法ⅡB	2 後	1			○			11	7						
	論文作成演習ⅠA	1 前	1				○		11	7						
	論文作成演習ⅠB	1 後	1				○		11	7						
	論文作成演習ⅡA	2 前	1				○		11	7						
	論文作成演習ⅡB	2 後	1				○		11	7						
	(特別研究)	1～3 通	—	—	—		○		11	7						
小計 (8科目)		—	8	0	0	—			11	7	0	0	0	兼0	—	
合計 (8科目)		—	8	0	0	—			11	7	0	0	0	兼0	—	
学位又は称号		博士 (理学)、博士 (工学)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係								
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授 業 期 間 等								
博士課程に5年以上(博士課程前期課程又は修士課程を修了した者)にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む)在学し、生命科学専攻科目の必修科目の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、専門外国語学力の認定、博士論文の審査及び口頭試問による最終試験に合格することを、同課程の修了要件とする。ただし、在学期間に関しては、とくに優れた研究業績をあげた者については、博士課程に3年(博士課程前期課程2年又は修士課程2年を含む)以上在学すれば足りるものとする。								1 学年の学期区分				2学期				
								1 学期の授業期間				15週				
								1 時限の授業時間				90分				

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学研究科 情報科学専攻 博士課程前期課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 攻 科 目	アルゴリズム理論特論	1・2 前		2		○			1					兼1	隔年
	計算幾何学特論	1・2 前		2		○									
	離散数学特論	1・2 後		2		○			1						隔年
	知識情報処理特論	1・2 前		2		○			1						隔年
	システム設計特論	1・2 前		2		○			1						隔年
	情報理論特論	1・2 前		2		○			1						隔年
	データマイニング特論	1・2 前		2		○				1					隔年
	分散処理システム特論	1・2 前		2		○			1						隔年
	モバイル通信特論	1・2 前		2		○			1						隔年
	マルチスケールシミュレーション特論	1・2 後		2		○			1						隔年
	情報ネットワーク特論	1・2 前		2		○			1						
	知的財産特論	1・2 前		1		○								兼1	集中
	研究開発型ベンチャー創成	1・2 後		2		○								兼1	集中
	情報科学特殊講義X I	1・2 前		1		○								兼1	隔年/集中
	情報科学特殊講義X II	1・2 前		1		○								兼1	隔年/集中
	情報科学特殊講義X III	1・2 前		1		○								兼1	隔年/集中
	情報科学特殊講義X IV	1・2 前		1		○								兼1	隔年/集中
	情報科学特殊講義X V	1・2 前		1		○								兼1	隔年/集中
	情報科学特殊講義X VI	1・2 前		1		○								兼1	隔年/集中
	海外理工学アドバンスプログラムA	1・2		1		○									不定期開講
	海外理工学アドバンスプログラムB	1・2		2		○									不定期開講
	海外理工学アドバンスプログラムC	1・2		3		○									不定期開講
小計 (22科目)	—	0	37	0	—			9	1	0	0	0	兼8	—	
教 職 関 連 科 目	コンピュータビジョン特論	1・2 後		2		○								兼1	隔年
	ヒューマンインタフェース特論	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	インタラクション科学特論	1・2 後		2		○								兼1	
	感性工学特論	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	音声認識特論	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	ヒューマンコミュニケーション特論	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	センサデータマイニング特論	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	制御システム特論	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	ニューロロボティクス特論	1・2 後		2		○								兼1	
	マルチメディア工学特論	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	メカノシステム特論	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	情報科学特殊講義 I	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	情報科学特殊講義 II	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	情報科学特殊講義 III	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	情報科学特殊講義 IV	1・2 後		2		○								兼1	隔年
	代数学特論 I	1・2 後		2		○								兼1	隔年
	代数学特論 II	1・2 後		2		○								兼1	隔年
	代数幾何学特論 I	1・2 後		2		○								兼1	隔年
	代数幾何学特論 II	1・2 後		2		○								兼1	隔年
	微分幾何学特論 I	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	微分幾何学特論 II	1・2 後		2		○								兼1	隔年
	多様体特論 I	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	多様体特論 II	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	解析学特論 I	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	解析学特論 II	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	関数方程式特論 I	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	関数方程式特論 II	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	確率論特論 I	1・2 後		2		○								兼1	隔年
	確率論特論 II	1・2 後		2		○								兼1	隔年
	数値解析特論 I	1・2 後		2		○								兼1	隔年
	数値解析特論 II	1・2 後		2		○								兼1	隔年

教 育 課 程 等 の 概 要														
(理工学研究科 情報科学専攻 博士課程前期課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教職 関連 科目	現象数学特論Ⅰ	1・2 前		2		○								兼1 隔年
	現象数学特論Ⅱ	1・2 後		2		○								兼1 隔年
	非線形問題特論Ⅰ	1・2 後		2		○								兼1 隔年
	非線形問題特論Ⅱ	1・2 後		2		○								兼1 隔年
	金融・保険数学特論Ⅰ	1・2 後		2		○								兼1 隔年
	金融・保険数学特論Ⅱ	1・2 前		2		○								兼1 隔年
	数理科学特殊講義Ⅰ	1・2 前		1		○								兼1 集中/隔年
	数理科学特殊講義Ⅱ	1・2 前		1		○								兼1 集中/隔年
	数理科学特殊講義Ⅲ	1・2 前		1		○								兼1 集中/隔年
	数理科学特殊講義Ⅳ	1・2 前		1		○								兼1 集中/隔年
	数理科学特殊講義Ⅴ	1・2 前		1		○								兼1 集中/隔年
	数理科学特殊講義Ⅵ	1・2 前		1		○								兼1 集中/隔年
	数理科学特殊講義Ⅶ	1・2 前		1		○								兼1 集中/隔年
	数理科学特殊講義Ⅷ	1・2 前		1		○								兼1 集中/隔年
数理科学特殊講義Ⅸ	1・2 前		1		○								兼1 集中/隔年	
数理科学特殊講義Ⅹ	1・2 前		1		○								兼1 集中/隔年	
	小計(47科目)	—	0	84	0		—		0	0	0	0	0	兼26 —
研究 科目	文献演習	1～2 通	4				○		9	1	0			
	特別実験及び演習	1～2 通	12					○	9	1	0			※演習
	小計(2科目)	—	16	0	0		—		9	1	0	0	0	兼0 —
合計(71科目)		—	16	121	0		—		9	1	0	0	0	兼26 —
学位又は称号		修士(理学)、修士(工学)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
博士課程前期課程に2年以上在学し、必修科目「特別実験及び演習」12単位、「文献演習」4単位と選択科目14単位の合計30単位以上を修得し、研究指導を受けた上、専門外国語学力の認定、当該研究科の行う論文審査と口頭試問による最終試験に合格することを同課程の修了要件とする。ただし、14単位のうち8単位以上は専攻科目から選択しなければならない。なお、教職関連科目、他専攻および他研究科の科目を修得した場合は、6単位までを必要修得単位数に含むことができる。 在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。								1 学年の学期区分					2学期	
								1 学期の授業期間					15週	
								1 時限の授業時間					90分	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(理工学研究科 情報科学専攻 博士課程後期課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
情報科学専攻科目	研究計画法ⅠA	1 前	1			○			9	1				
	研究計画法ⅠB	1 後	1			○			9	1				
	研究計画法ⅡA	2 前	1			○			9	1				
	研究計画法ⅡB	2 後	1			○			9	1				
	論文作成演習ⅠA	1 前	1				○		9	1				
	論文作成演習ⅠB	1 後	1				○		9	1				
	論文作成演習ⅡA	2 前	1				○		9	1				
	論文作成演習ⅡB	2 後	1				○		9	1				
	(特別研究)	1～3 通	—	—	—		○		9	1				
小計(8科目)		—	8	0	0	—			9	1	0	0	0	兼0 —
合計(8科目)		—	8	0	0	—			9	1	0	0	0	兼0 —
学位又は称号		博士(理学)、博士(工学)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
博士課程に5年以上(博士課程前期課程又は修士課程を修了した者)にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む)在学し、情報科学専攻科目の必修科目の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、専門外国語学力の認定、博士論文の審査及び口頭試問による最終試験に合格することを、同課程の修了要件とする。ただし、在学期間に関しては、とくに優れた研究業績をあげた者については、博士課程に3年(博士課程前期課程2年又は修士課程2年を含む)以上在学すれば足りるものとする。								1 学年の学期区分					2学期	
								1 学期の授業期間					15週	
								1 時限の授業時間					90分	

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学研究科 人間システム工学専攻 博士課程前期課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 攻 科 目	コンピュータビジョン特論	1・2 後		2		○			1						隔年
	ヒューマンインタフェース特論	1・2 後		2		○			1						隔年
	インタラクション科学特論	1・2 後		2		○			1						
	感性工学特論	1・2 前		2		○			1						隔年
	音声認識特論	1・2 前		2		○			1						隔年
	ヒューマンコミュニケーション特論	1・2 前		2		○			1						
	センサデータマイニング特論	1・2 前		2		○			1						隔年
	制御システム特論	1・2 前		2		○				1					
	ニューロロボティクス特論	1・2 後		2		○			1						
	マルチメディア工学特論	1・2 後		2		○			1						隔年
	メカノシステム特論	1・2 前		2		○			1						隔年
	情報ネットワーク特論	1・2		2		○								兼1	隔年
	知的財産特論	1・2 前		1		○								兼1	隔年／集中
	研究開発型ベンチャー創成	1・2 前		2		○								兼1	集中
	情報科学特殊講義Ⅰ	1・2 前		1		○								兼1	隔年／集中
	情報科学特殊講義Ⅱ	1・2 前		1		○								兼1	隔年／集中
	情報科学特殊講義Ⅲ	1・2 前		1		○								兼1	隔年／集中
	情報科学特殊講義Ⅳ	1・2 前		1		○								兼1	隔年／集中
	情報科学特殊講義Ⅴ	1・2 前		1		○								兼1	隔年／集中
	情報科学特殊講義Ⅵ	1・2 前		1		○								兼1	隔年／集中
	海外理工学アドバンスプログラムA	1・2		1		○									不定期開講
	海外理工学アドバンスプログラムB	1・2		2		○									不定期開講
	海外理工学アドバンスプログラムC	1・2		3		○									不定期開講
	小計 (23科目)	—	0	39	0	—	—	—	10	1	0	0	0	兼9	—
教 職 関 連 科 目	アルゴリズム理論特論	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	計算幾何学特論	1・2 前		2		○								兼1	
	離散数学特論	1・2 後		2		○								兼1	
	知識情報処理特論	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	システム設計特論	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	情報理論特論	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	データマイニング特論	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	分散処理システム特論	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	モバイル通信特論	1・2 後		2		○								兼1	隔年
	マルチスケールシミュレーション特論	1・2 後		2		○								兼1	
	情報科学特殊講義Ⅰ	1・2 後		2		○								兼1	隔年
	情報科学特殊講義Ⅱ	1・2 後		2		○								兼1	隔年
	情報科学特殊講義Ⅲ	1・2 前		2		○								兼1	隔年
	情報科学特殊講義Ⅳ	1・2 前		2		○								兼1	隔年
小計 (14科目)	—	0	28	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼13	—	
研 究 科 目	文献演習	1～2 通	4				○		10	1	0				
	特別実験及び演習	1～2 通	12					○	10	1	0				※演習
	小計 (2科目)	—	16	0	0	—	—	—	10	1	0	0	0	兼0	—
合計 (39科目)		—	16	67	0	—	—	—	10	1	0	0	0	兼13	—
学位又は称号		修士 (理学)、修士 (工学)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
博士課程前期課程に2年以上在学し、必修科目「特別実験及び演習」12単位、「文献演習」4単位と選択科目14単位の合計30単位以上を修得し、研究指導を受けた上、専門外国語学力の認定、当該研究科の行う論文審査と口頭試問による最終試験に合格することを同課程の修了要件とする。ただし、14単位のうち8単位以上は専攻科目から選択しなければならない。なお、教職関連科目、他専攻および他研究科の科目を修得した場合は、6単位までを必要修得単位数に含むことができる。 在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。								1 学年の学期区分			2 学期				
								1 学期の授業期間			15 週				
								1 時限の授業時間			90 分				

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学研究科 人間システム工学専攻 博士課程後期課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
人間 シス テ ム 工 学 専 攻 科 目	研究計画法ⅠA	1 前	1			○			10	1					
	研究計画法ⅠB	1 後	1			○			10	1					
	研究計画法ⅡA	2 前	1			○			10	1					
	研究計画法ⅡB	2 後	1			○			10	1					
	論文作成演習ⅠA	1 前	1				○		10	1					
	論文作成演習ⅠB	1 後	1				○		10	1					
	論文作成演習ⅡA	2 前	1				○		10	1					
	論文作成演習ⅡB	2 後	1				○		10	1					
	(特別研究)	1～3 通	—	—	—		○		10	1					
小計(8科目)	—	8	0	0	—	—	—	10	1	0	0	0	兼0	—	
合計(8科目)		—	8	0	0	—	—	—	10	1	0	0	0	兼0	—
学位又は称号		博士(理学)、博士(工学)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係							
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等							
博士課程に5年以上(博士課程前期課程又は修士課程を修了した者)にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む)在学し、人間システム工学専攻科目の必修科目の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、専門外国語学力の認定、博士論文の審査及び口頭試問による最終試験に合格することを、同課程の修了要件とする。ただし、在学期間に関しては、とくに優れた研究業績をあげた者については、博士課程に3年(博士課程前期課程2年又は修士課程2年を含む)以上在学すれば足りるものとする。								1 学年の学期区分				2学期			
								1 学期の授業期間				15週			
								1 時限の授業時間				90分			

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先進 エネ ルギ ー ナ ノ 工 学 専 攻 科 目	エネルギー半導体特論Ⅰ	本講義では、半導体プロセス材料工学についての物理的そして化学的な基礎的知識を学びながら、省エネルギー社会を実現するための新奇材料に焦点を当てた最新のプロセスについても修得することを目的とする。具体的には、半導体材料のモノづくりの観点から、真空技術・熱伝導・材料加工・結晶成長・表面界面・物質輸送・各種分析評価方法について学び、特にナノ領域での物質制御と評価法についての最新の情報を提供する。また、材料としてはSiCやGaNやAlN、そしてグラフェンなどの産業界が注目する材料についても包含する。	隔年
	エネルギー半導体特論Ⅱ	太陽電池・白色発光ダイオード(LED)・パワーデバイスなどのエネルギー半導体デバイスの性能・信頼性に大きく影響する結晶欠陥の基礎について学ぶ。上記エネルギー半導体デバイスの動作原理の復習から始め、理想的なデバイスを実現するためにはどのような材料特性が必要となるかを実例に基づいて学修する。続いて、結晶欠陥の空間的広がりを基に、結晶欠陥を0次元(空孔・格子間原子など)、一次元(転位)、二次元(積層欠陥・亜粒界など)、三次元(インクルージョンなど)と分類し、それぞれの特徴やそこで用いられる技術用語などについて学ぶ。最後に、これら結晶欠陥の代表的な評価・解析手法について学ぶと共に、その成因・デバイスへの影響について学修し、エネルギー半導体開発に係る技術者としての基礎を固める。	隔年
	エネルギー半導体特論Ⅲ	C02排出量の半減に最も期待されるパワーエレクトロニクス分野で重要となるエネルギー半導体「結晶材料」の基盤について学ぶ。本講義では、結晶に関する数学的基礎(群論・テンソル・フーリエ変換)および、物理的基礎(対称性とそれを基にした物性、結晶及びその欠陥の評価)に関する知識を学ぶ。また、当該分野特有の表記法など学ぶことで、研究開発に活かせることをめざす。さらに、半導体のみならず電子部品・各種電池・超電導等々結晶材料をベースとするエネルギー関連分野に共通の基盤知識を提供する。	隔年
	エネルギー材料特論Ⅰ	我々の日常生活の中で、一番身近でかつ大きなエネルギーを利用しているモノの代表が自動車と言える。本講義では自動車を題材として、燃料電池や熱電発電などのエネルギー変換材料、排ガス浄化触媒といった環境材料を取り上げる。産業界で実際に応用されている材料について焦点を当て、その機能発現原理に対する理解を深めていく。同時に大型放射光施設SPring-8での高輝度シンクロトン放射光を用いた材料解析など、結晶工学的な解析についても概説し、材料設計に必要な知識を修得することを目標とする。	
	エネルギー材料特論Ⅱ	電気抵抗がゼロである超伝導材料技術は、創エネ・蓄エネ・省エネを実現するキーテクノロジーである。本講義では、究極のエネルギー材料である超伝導体について、基礎的物理現象を概説し、応用展開を考える上で必要となる物理現象を修得する。さらに、具体的な超伝導応用機器を紹介することで、それらの現象がどのような形で社会に貢献しているかを学ぶことを目標とする。	隔年
	エネルギー材料特論Ⅲ	本講義では、先進エネルギー材料の代表的な応用例である蓄電デバイスの基礎となる電気化学について詳細に述べる。具体的には、酸化還元やファラデーの法則を始めに、電解質溶液・起電力・電極反応に関する基礎を概説する。また、これらを用いて実際のデバイスである実用電池(ダニエル電池などの一次電池、リチウムイオン電池などの二次電池など)の理解と説明ができるようにする。さらに、水などの電気分解・腐食・光電気化学についても理解する。	隔年

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先進 エネ ルギ ー ナ ノ 工 学 専 攻 科 目	エネルギー材料特論Ⅳ	化石燃料資源の代替エネルギーとして注目されている水素エネルギーに関する講義を行う。水素の基本的性質から始め、輸送技術・インフラ整備・利用技術など水素社会の構築に向けた現実的な問題とそれに対する具体的な取り組みなどを説明する。とりわけ、燃料電池自動車を普及させるために必要不可欠な材料である水素吸蔵合金を中心に講義を行い、その特性を理解するための材料物性学の基礎や各種の材料組織制御・評価技術などを修得することを目標とする。	隔年
	ナノ物性特論Ⅰ	本講義では、先進エネルギー分野で利用されるナノ材料から発現する反応性を理解し、反応解析を行う上で必要となる理論計算手法について取り扱う。具体的には、電子状態・原子の動きなどを扱うナノスケール反応解析、反応場の微細構造などを扱うメソスケール反応解析、運転条件・濃度勾配の変化などを扱うマクロスケール反応解析の基礎的な理論・計算手法を概説する。ナノからマクロを結ぶマルチスケール科学の基礎理論を体系的に修得することを目的とする。	
	ナノ物性特論Ⅱ	本講義では、先進エネルギー分野で利用される材料に関して、放射光を利用したナノレベルでの物性評価手法の基礎と応用を取り扱う。具体的には、光（電磁波）と物質との相互作用（吸収・回折・干渉）によって起こる様々な現象を理解した上で、光（電磁波）の一種である放射光と物質の相互作用を利用した放射光分析について概説する。講義では、原理の理解にとどまらず、分析のシミュレーションや解析によって理解を深めることで、放射光分析を体系的に修得することを目的とする。	隔年
	ナノ物性特論Ⅲ	本講義では、先進エネルギー分野で利用されるナノ材料の物性を理解し、解析する上で必要となる理論計算手法について取り扱う。具体的には、ナノ材料の電子状態に関する理論解析手法の基礎と量子統計物理学の基礎を概説した後、ナノデバイスにおける電子輸送特性の理論、ナノ磁性材料の基礎理論、ナノ材料における光学応答の理論を取り扱う。ナノ物性の基礎理論を体系的に修得することを目的とする。	隔年
	ナノ物性特論Ⅳ	表面は物質と外界の接点であり、特に、ナノテクノロジー分野において、表面の効果が顕著に表れる。このため、ナノサイエンスやナノテクノロジーをテーマとする研究者・技術者にとって、表面科学に関する知識は重要である。そこで、本講義では、物質の表面で起きる様々な物理・化学現象の基礎を学んでもらった上で、その成果がナノテクノロジーやエネルギー技術にいかに応用されているかを知ってもらい、表面科学に関する知識を自らの研究に役立ててもらうことを目標とする。	隔年
	ナノ物性解析特殊講義	物質の物性・機能発現の主役は電子であり、その状態を規定しているのは物質を構成している原子の並び（局所構造・長周期構造）である。これら電子や原子を直接観察できるX線による散乱、分光法について概説する。物質をナノサイズにまで小さくしていくと、量子効果が顕著になり、新しい物性・機能が発現することが期待され、その時の電子状態や結晶状態との相関解明が、新奇物質創製に重要になる。本講義では、高輝度X線である放射光X線を利用した散乱、分光法を解説し、それらを利用した超伝導体、触媒の研究事例を紹介することで、X線による物質科学の研究の重要性を理解することを目的とする。	集中/隔年

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先進 エネ ルギ ー ナ ノ 工 学 専 攻 科 目	エネルギー半導体特殊講義	本講義では、パワーエレクトロニクス分野で重要な技術である電力変換と制御についての理解を深めるため、直流・交流に対する電気回路の基礎について学ぶ。半導体デバイスのスイッチング動作、コンデンサやリアクトルの役割、コンバータ・インバータの原理と回路動作について学修する。また理想的な動作だけでなく、実際のダイオードやトランジスタの動作と、電力変換において生じる損失についても学ぶ。さらにSi半導体デバイスやワイドギャップ半導体デバイスの回路動作上の特徴などについても学び、材料・デバイス研究関連分野の共通基礎知識を修得する。	集中/隔年
	ナノ物性特殊講義Ⅰ	本講義では、材料の結晶性に依存せず原子配列の情報を取得できる放射光X線吸収微細構造（XAFS）の基礎と応用を取り扱う。先進エネルギー材料には、高結晶性の単結晶からアモルファス材料、クラスターなどナノ材料など様々な形態を持つものがある。XAFSはこれらの形態によらず原子間の二体相関などの局所構造の情報が得られる強力な手段である。測定原理や測定方法から得られたデータの解析方法までを系統的に修得することを目的とする。	集中/隔年
	ナノ物性特殊講義Ⅱ	大型放射光施設SPring-8にて講義と実習を通して物質科学の有力な研究手段であるシンクロトン放射光とその利用法について理解することを目標とする。集中形式の講義前半はシンクロトン放射光の発生原理、ビームライン・光学系の基礎と構築法、回折や分光、イメージング等のそれぞれについての基礎と実際についての講義を行う。後半では履修者は物質科学に関する複数の実習を選択し、複数日にわたり放射光を用いた実験とデータ解析を行うことで、物質科学と放射光科学の最先端の状況を実体験する。履修者の理解を深めるために、加速器やX線自由電子レーザー施設等の通常の見学コースには含まれる機会の少ない施設についても見学する。	集中 講義11.25時間 実習11.25時間
	物性物理学特論Ⅲ	熱流や物質の輸送などを伴う巨視的な自然現象を記述する非平衡熱力学の基本的な考え方を学ぶ。温度、圧力やエントロピーなど、熱力学で用いられる概念を非平衡状態にある系に適用し、保存量に対する連続の式、熱力学的な力とそれに対する応答、エントロピー生成と非可逆性、揺らぎの特性とオンサガーの相反関係などを議論する。さらに、これらを用いて、流体、熱伝導や電流など、具体的な非平衡現象の熱力学的特性を調べる。	隔年
	物性物理学特論Ⅳ	生体膜の基本構造である二分子層膜を構成する脂質分子は、水中で自発的に集合して非常に多様な構造を形成する。このように多様な脂質分子集合体が形成される機構を熱力学に基づいて解説する。また、脂質膜間にはたらく拡散電気二重層による斥力、ファン・デル・ワールス力による引力・水和力・ゆらぎ力等の相互作用について概説する。さらに、様々な環境条件下で現れる相の間の相転移挙動について議論する。両親媒性分子集合体の構造・物性についての基礎知識を修得するとともに、生体分子集合体の代表的な実験手法について理解することを目標とする。	隔年
	物性物理学特論Ⅴ	金属は高い熱や電気の伝導性・展性・延性・可塑性などの加工性にも優れている上に、合金という組成的なバラエティを有しており、産業的には非常に重要な素材である。講義の内容としては、この金属、特に合金を中心として、金属の基本的な構造とその評価方法、合金の相図とその熱力学的な説明、電気伝導、磁性などの物性および評価方法などについて説明する。特に、物性については、応用を考え、巨大磁気抵抗効果（GMR）を利用した磁気センサーやそれに至る研究の歴史、半導体メモリー素子への応用を、その周辺の技術や他の将来的なデバイスとの比較とともに紹介する。	隔年

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先進 エネ ルギ ーナ ノ工 学専 攻科 目	物理学特論Ⅲ	光と物質の相互作用を、光と物質の双方を量子論で扱う量子光学について講義する。輻射場の量子化によって光子の概念を導入した後、光の波動性と粒子性によって、光と物質との相互作用で起きるさまざまな現象がどのように理解されるかを学修する。レーザーの原理と各種レーザー動作・コヒーレンス・非線形光学などについて講述し、近接場光学・フォトニック結晶・量子情報などの最近のトピックスも紹介する。	隔年
	知的財産特論	(概要) 研究者にとって、知的財産制度、殊に特許制度を理解することは、自己の研究成果を円滑に保全し、また、研究の際にどのような観点で研究を進めるのが好ましいかという点について、示唆が得られる点で極めて望ましいことである。本講義では、理工系の学生が、実際の研究及び技術開発の場面で特許法を活用できるための知識を与えることを目的としており、そのために、特許法の基礎的な知識に加えて、実践的な手続についての知識を付与するものである。各技術分野の研究に即して、具体的な知識や明細書作成能力の修得を目的とする。 (オムニバス方式／全8回) (40 木下 勇／2回) 人類最大のイノベーションである空中窒素固定法によるアンモニア合成には、その契機となる大学での基礎研究から工業化までに数年しかかかっていない。ここに含まれる、知財から工業化、デュアルユースの問題から学ぶことは極めて多くこれを講義する。 (42 小関 珠音／3回) わが国の国力を高めるためには、研究開発のインセンティブを高め、世界をリードする事業を開発し、そして、市場・産業を創造する必要がある。この中で、企業は、どのように知的財産を活用して、自社の技術等を守り、経済的便益を得るのか。また、企業は発明者に対し、どのような動機を与え、創作水準を向上させるのか。また、大学の役割は何か。これらの課題に対し、企業の知的財産戦略、技術の普及と漏洩、職務発明制度、大学発ベンチャーとイノベーションの視点から講義を行う。 (44 町田 尚子／3回) 理工系の研究成果あるいは技術開発成果を知的財産として保護するためには、技術の理解に加えて特許制度の法的知識が必要である。そのため、まず、知的財産法における特許法の位置づけ、特許要件、出願から権利消滅までの手続等、特許法の基礎知識を修得する。	集中/ オムニバス方式
	研究開発型ベンチャー創成	文理融合（理工学研究科-経営戦略研究科経営戦略専攻）による研究開発型ベンチャー企業創成の講義とビジネスプラン作成を行う。理工学研究科の技術シーズを素材に、各研究科10名の院生のグループワークによって、製品企画・製造・販売・アフターサービスなどのビジネス・モデルと事業システムを考案し、最終的にはビジネスプランを作成する。 ・技術シーズがどのようにビジネスに展開するかを学ぶ。 ・ビジネス創成の過程に必要な諸知識・スキル（知的財産権・資金調達・マーケティング・環境分析・事業戦略など）を学修する。 ・文理融合による新たなイノベーションの可能性を探索する。	集中

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先進 エネ ルギ ー ナ ノ 工 学 専 攻 科 目	国際自然科学特殊講義Ⅰ	(英文)The purpose of this course is to provide as strong understanding of physical chemistry and to show how the principles of physical chemistry are applied in chemistry, biology, and life science. Physical chemistry is a basis for all the fields of natural science. You will learn the ways in which pure physics is applied to chemical and biochemical problems. This course will emphasize a molecular approach and focus on two main topics; quantum mechanics and thermodynamics. Quantum mechanics focuses on the wave properties of materials and energy. Thermodynamics focuses on the transfer of energy via heat flow. (和訳)本講義の目的は、物理化学の理解を通じて物理学の諸法則（力学・電磁気学・熱力学・光学など）が化学、生命化学、生物学の様々な自然科学諸現象をどのように説明できるかを学ぶことである。本講義では対象物質の分子論的な理解を重んじ、特に量子力学と熱力学について重点的に学ぶ。量子力学は、物質、エネルギーの波動性に関する学問、熱力学は熱移動に伴うエネルギー変換に関する学問で、どちらも分子の振る舞いを理解する上で必須の分野である。	
	国際自然科学特殊講義Ⅱ	(英文)This class is opened for students who did not study high level biology at college. The purpose of this course is to obtain comprehensive knowledge of fundamental and recent knowledge of general cell biology. Students will learn about the cell structural, cell function, and cell behavior in molecular level. Basic knowledge of general biology and chemistry is required. (和訳)先端的な生命科学の研究を遂行するには高度な専門知識が要求される。本講義は、大学で生命科学以外の分野で学んだ学生（生命科学を専門に学んでいない学生）に対し、研究遂行に必要な一般的な生命科学の知識を提供する。それ以外にも細胞生物学に関しては、最新知識のエッセンスを厳選し、情報提供を行う。受講者は、細胞の構造・機能・細胞の挙動について分子レベルで学ぶ。受講者には生物学、化学の基礎知識を求める。	
	国際自然科学特殊講義Ⅲ	(英文)The purpose of this course is to provide a strong understanding of the analytical principles and to show how these principles are applied in chemistry, biology, and environmental science. This course will emphasize statistic; how to treat experimental data and error. We try to apply those analytical principles to the data of spectrophotometry and liquid chromatography. (和訳)本講義の目的は、物理化学、統計学の理解に基づいて分析化学の諸原理を理解し、その諸原理が化学、生物学、環境科学の諸問題にどのように適用できるかを学ぶことである。様々な分析装置を正しく用いるには、その分析手法の諸原理を理解し、得られた測定データを適切に処理する必要がある。また、分析原理の理解は、新たな分析法の確立へと繋がる。本講義では特に(1)統計学、測定データとエラーの取り扱い方法、(2)分光光度計、液体クロマトグラフィなど様々な分析装置の諸原理を学ぶ。	
	国際自然科学特殊講義Ⅳ	(英文)Main purpose of this course is to obtain knowledge of advanced bioscience to conduct research work in a laboratory. Recent information related to molecular biology, biotechnology, and experimental approaches needed for research activity would be provided. Skills to detect DNA, RNA and proteins are also mentioned. Group work and presentation are sometimes requested during class work. (和訳)本講義の目的は、研究室で研究を遂行するうえで、必要となる最新の生命科学の知識を身につけることである。特に、最新の生物学、分子生物学、バイオテクノロジー、研究を行ううえで必要になる実験の原理を扱う。分子生物学の実験で必ず必要となるDNA、RNA、およびタンパク質を検出する技術についても触れる。また、講義の中で課題やグループワークを取り入れる場合がある。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先進 エネ ルギ ー ナ ノ 工 学 専 攻 科 目	国際自然科学特殊講義V	(英文)Students will learn the basic concepts of general chemistry. The main topics of this course are as follows. 1. Chemical equilibrium: chemical equilibria govern diverse natural phenomena; the folding of proteins. 2. Reaction kinetics: the study of reaction mechanism and rate laws. 3. Electrochemistry: the study of the interchange of chemical and electrical energy through electron transfer. (和訳)本講義の目的は、一般化学の諸原理を学び、それを自然科学各分野へ展開することである。主なトピックは平衡論、反応速度論、電気化学などである。化学平衡は自然現象の方向性を規定し、様々な化学反応、例えばタンパク質のフォールディング状態を決定づける。反応速度論では、平衡論に基づく化学反応の機構を検討することで、その反応速度がどのように決定されるかを理解する。電気化学では、物質間の電子移動に伴う化学、電気エネルギー交換を理解する。	
	国際自然科学特殊講義VI	(英文)This is a course of life science fields. A wide range of topics is covered from the following fields; cell biology, molecular genetics, molecular biology, microbiology, biotechnology, plant molecular biology, biochemistry, developmental biology, and so on. The course objective is to learn the fundamental knowledge of life science fields and to build on the basics for the conduct of scientific research at graduate school. (和訳)本講義では、生命科学系諸分野について学ぶ事を目的とする。講義の対象となる生命科学系分野は、細胞学、分子遺伝学、分子生物学、微生物学、生命工学、植物分子生物学、生化学、発生学、生物工学等である。これらの生命科学系諸分野の基礎を広く且つ十分に修得し、大学院での研究遂行の為にしっかりと築くことが本講義の最終目標である。	
	国際自然科学特殊講義VII	(英文)The purpose of this course is to study basic theory and applications of molecular spectroscopy. Molecular spectroscopy is a fundamental analytical technique using electromagnetic wave to determinate molecules in samples. This course especially focus on optical spectroscopy, which includes UV-Visible, infrared, near-infrared and Raman spectroscopies. The lectures describe background theories on quantum mechanics, basic optics, spectrometer and accessories, data acquisition and electronics and applications to many different types of samples. (和訳)本講義では、分子分光学についてその原理と応用技術を学ぶ。分子分光学は電磁波を用いて試料中の分子を観察する手法である。本授業では特に光分光学、すなわち紫外・可視・赤外・近赤外・ラマン分光学に焦点を当てる。量子力学と原理的背景、基礎光学、分光器および周辺機器・データ収集および電子機器、および様々なタイプの試料に対する応用分析について講義を進めていく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先進 エネ ルギ ー ナ ノ 工 学 専 攻 科 目	国際自然科学特殊講義Ⅷ	(英文)The objectives of this course are to develop scientific literacy with concepts of physics, and to study recent research topics in physics. This course consists of two major parts. The first part is for introductory physics in which students study some basic theories and/or experimental techniques in physics. The second part is advanced topics of physics, including condensed-matter physics, biophysics, and astrophysics. (和訳)本講義の目的は、物理的な考え方に基づいた科学的素養を身につけ、物理学における最近の研究の話題について学ぶことである。この講義では、まず、物理入門として、物理学における基礎的な理論と実験に関するいくつかのトピックスについて学修した後、物性物理、生物物理や宇宙物理などにおけるさらに進んだ物理の話題を講義形式で学ぶ。	隔年
	国際自然科学特殊講義Ⅸ	(英文)This is a course of galactic astronomy. A wide range of topics is covered from planets to stars and interstellar matter in our Milky Way galaxy. The course objective is to learn how basic physics is applied to selected astronomical problems. We will learn how planets and stars move under gravity, what they are made of, and how we can analyze electromagnetic radiation with spectroscopy to determine the nature of Galactic objects at enormous distances from the Earth. (和訳)本講義では、銀河天文学について学ぶ。天の川銀河の中に存在する惑星・星・星間物質など様々な天体について紹介する。基礎物理学の知識を用いてどのように天文学の問題を解決できるかなど、具体的な問題を使って、その方法について学ぶ。例えば、重力による惑星の運動や星の内部構造など、非常に遠い天体の性質をどのように電磁波の分光観測からわかるかについて知識を深める。	
	国際自然科学特殊講義Ⅹ	(英文)In this course, we will learn about the morphology and physics of galaxies, the largest building blocks of the Universe, their environments and interactions, and various observational methods used to study star formation as a key factor in the formation and evolution of galaxies. In particular, we will learn about the structure and star formation properties of elliptical and spiral galaxies, as well as about the expansion of the Universe (introduction to cosmology). The course objective is to provide an understanding of the structure and evolution of the cosmos. Basic concept of astronomy is explained in the course. The course also reviews basic physics and mathematics describing the cosmos. (和訳)本講義の主なテーマは、宇宙の最大な基礎的要素である系外銀河の形態と物理学とその環境と相互作用である。銀河の進化で最も重要と思われる星形成過程を研究するための様々な観測的方法についても紹介する。特に楕円銀河と渦巻銀河の構造と星形成及び宇宙全体の膨張（宇宙論入門）について学ぶ。講義の目的は、宇宙全体の構造や進化について知識や理解を深めることである。天文学の基礎的な概念は講義中に説明を行う。また、講義においては、宇宙を記述している物理や数学の基礎概念の復習も行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先進 エネ ルギ ー ナ ノ 工 学 専 攻 科 目	国際自然科学特殊講義XⅢ	(英文) The objectives of this course are to study advanced energy science for sustainable society and to develop scientific literacy through the study of basic concept of nanotechnology for sustainable energy. Students also study recent research topics in advanced energy science on the basis of physics and chemistry studied in their undergraduate schools. The research topics include hydrogen storage, next generation battery and fuel cell, two-dimensional materials such as graphene, novel high-temperature superconductors, and advanced power semiconductors. All combined to provide an opportunity to study the state-of-the-art of advanced energy science based on nanotechnology. (和訳) 本講義の目的は、持続可能なエネルギー社会を実現するための先進エネルギー科学を学修することにある。また、このような学修を通して科学を探究する能力を養うこと、そして学部で修得した物理学、化学の知識を基に、先進エネルギー科学の最近の進展について学修することを目標とする。学修する先進エネルギー科学の題目としては、水素貯蔵、次世代二次電池及び燃料電池、グラフェンなどの二次元物質、新規超電導物質、先進パワー半導体などが挙げられる。履修者はこれらの技術に関連付けて学修することにより、最先端のエネルギー科学におけるナノテクノロジーの役割について理解することができる。	隔年
	国際自然科学特論Ⅰ	(英文) Aim: Students will learn academic writing in science. At the end of the semester students will acquire the following skills. 1. How to organize an essay (3-4 weeks) - by referring to current research papers and essays, students will learn to recognize how the paper is organized, how the paragraphs are related and intertwined, and how the arguments are effectively presented. 2. Punctuation and transition signals (4-5 weeks) - Even experienced researchers often err in punctuation and cannot use transition signals effectively. Students will learn correct punctuation, and appropriate and effective ways of using transition signals. 3. How to write professional English (3-4 weeks) - Academic writing contains different styles, sentence structures and choices of words from any other daily writing. Students will learn them to reach out for professional English. (和訳) 目的：科学分野における論文の作成方法を学ぶ。 目標：学期末までに次のようなスキルを学ぶ。 1. 論文の構成の仕方（3-4週間）実際の研究論文の中で構成がしつかりとできている論文を選択し、その構成がどのように効果的にできているのか、パラグラフごとにおける議論がどのように展開しているのか、などについて学ぶ。 2. パンクチュエーション及び文と文をつなぐ言葉（4-5週間）パンクチュエーションを正式に学んで正しく使えている人は、経験を積んだ科学者であっても少ない。正しい使い方をここで学ぶ。また文と文をつなぐ役目をするtransition signalsの効果的な使い方、論理的展開を促すようなsignalsの使い方ともここで学ぶ 3. 学究的な英語の書き方（3-4週間）学究的な英語の修得は経験を積むことでしかできないが、学究的な英語の典型をここで学ぶことで、将来学生が自分で学んでいけるように指導する。文の構成の仕方ともここで学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先進 エネ ルギ ーナ ノ工 学専 攻科 目	国際自然科学特論Ⅱ	(英文) The Course aims at improving presentation skills. Students will learn the following points. 1. Presentation manners (5-6 weeks) - Students will learn how to articulate their speech, engage with the audience, and control the speed, as well as delivery and body language. Students are requested to give three short speeches: twice for each speech based on the instructions and feedback they receive. 2. PowerPoint making tips (4-5 weeks) - Students will learn effective ways of creating slides, audience-friendly PowerPoint presentations, and certain tacit rules when creating slides. 3. Organization of a presentation (3-4 weeks) - Students start preparing a presentation of the topic of their research. Toward the last lesson day when they give their final presentation, they show their ongoing presentation at workshops, and improve theirs each week. (和訳) プレゼンテーションの仕方を学修するにあたって次のスキルを学ぶ。 1. プレゼンテーションのマナー (5-6週間) 2分ほどのスピーチを3つ発表するが、ひとつずつ2回繰り返す。スピーチごとにマナーの基本である聴衆に眼を向ける、明確な発音で話す、抑揚をつけ、ポーズをしっかりと取り、身振りの効果的な方法などを学ぶ。 2. パワーポイントの作成法 (4-5週間) 効果的なパワーポイントの作成方法を過去の例を基に学ぶ。スライドにどのような情報を組み込み、スピーチとの兼ね合わせはどのようにするのか、また聴衆に分かりやすいパワーポイントとはどんなものかを学ぶ。 3. プレゼンテーションの構成について (3-4週間) プレゼンテーション全体の構成について学ぶ。限られた時間内に収めるために気をつける点、プレゼンテーションの基本構成、発表の順序などを実際に学生が発表をしながら、ワークショップ形式で学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先進 エネ ルギ ーナ ノ工 学専 攻科 目	文献演習	(概要) 先進エネルギーナノ工学に関し、各研究室において指導教員のもとで「特別実験及び演習」と連動させて設定した各自の研究テーマに関連した文献を調査・収集し、内容を分析するとともに紹介する。これをもとに議論等を行って、自身の研究に対する位置付けを明確化する能力を身につけさせることを目的とする。 (1 鹿田 真一) 研究テーマ関連の英文学術文献を読みこなす力をつける。関連英文学術文献を輪読し、またその引用論文を調査することにより、総合的にその研究の概要を理解すると共に、研究者としての倫理を高める。自分の研究テーマ関連論文について理解することにより、研究のまとめ方、英文の学術論文の書き方や解釈方法を修得し、自らの論文執筆の参考とする。 (2 田中 裕久) 研究テーマに関する英語論文の読解力を身につけ、内容の正確な理解だけでなく、実験手法や実験結果のグラフ化・解析手法・考察に至る、研究課題の推進から成果発信までの総合力の修得をめざす。同時に先駆者たちの業績と、自身の研究成果を明確に区別し、正しい引用ができる客観的視点・コンプライアンス遵守の大切さも修得する。「特別実験及び演習」と合わせた修士研究活動の一環として、実際に研究成果を論文としてまとめることを経験させる。 (3 大谷 昇) 英語文献を読みこなす力を育成する。英語文献を輪読することにより、データや記述内容の批判的読み方や議論の展開の仕方などを修得する。また、自分の研究課題についてプレゼンテーションをすることにより、研究の要約の仕方や適切な説明方法の修得をめざす。題材としては、エネルギー半導体として重要な位置を占めるパワーデバイスやその革新的材料として期待されているSiC単結晶を取り上げる。 (4 金子 忠昭) 研究に関わる文献（主に英語で書かれた論文）の講読を行う。それぞれが関わる研究分野を俯瞰するため、また詳細な物理的背景について習熟することを目的とする。対象とする論文の選定・読み進め方・自分の研究との関わりについて、予め指導教員と議論する。内容について総合的にまとめたものをプレゼンテーション資料にしてまとめ、学会と同じ形式で発表する。 (5 日比野 浩樹) 自らの研究テーマに関連した最新の英語文献の通読を通して、研究者として必要不可欠な英語力と、その内容を深く理解するための読解力を身につけることを目的とする。同時に、研究テーマに関連した最新の英語論文を自ら収集する能力と、論文執筆に必要な論文構成力も修得してもらう。また、読解を通じて得られた情報が、自らの研究の新たなアイディアの発掘や、研究の加速につながるよう指導する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先進 エネ ルギ ーナ ノ工 学専 攻科 目	文献演習	(6 藤原 明比古) 研究課題にかかわる英語論文に関して、内容を正確に読み取るだけでなく、批評的思考でも内容を精査し、研究課題の推進から成果発信までの総合力を修得することを目標とする。自らの研究成果報告においても、適切な論理構成での作成ができるよう、作成者の立場での論文の分析を行う力も修得する。「特別実験及び演習」と合わせた研究活動の一環として行い、文献演習では論文読解力・論文作成力・科学情勢の判断力を高めることを目標とする。 (7 若林 克法) 各自の研究テーマ「特別実験及び演習」に関連する学術雑誌や国際会議で発表された最新論文について、論文紹介や討論、また関連する講義から得た知識等を基に、各自による独自の観点に基づく分析を行い、セミナー発表を通じて研究遂行能力、プレゼンテーション能力、討論の能力を養う。1年次は、研究領域にとらわれず広い分野の基礎的な文献を選定し、基礎知識の修得を拡げることに留意する。2年次は、研究テーマに即した学術論文を選定し、専門分野の知識を掘り下げることに留意する。 (8 吉川 浩史) 二次電池を中心とするエネルギーデバイス関連の文献を自ら調べて精読し、何が分かっているか、何が分かっていないかの理解を通して、研究者として必須の問題提起能力及び問題解決能力を身につけることを目的とする。蓄電デバイス関連の研究分野における研究の歴史とトレンドを知り、その知識を自分の研究へとフィードバックさせる。また、効率的な文献の読み方を学ぶとともに、論文の書き方のヒントを得る。 (9 松尾 元彰) 水素あるいは水素化合物のエネルギー利用に関連する科学英文の読解を通して、まずは自身の研究テーマの内容や背景を理解するとともに、関連研究における課題の発見および研究方法の修得を目的として進める。論文読解力に加えて内容を他人にわかりやすく発表できるようにすることも目的とする。 (10 小倉 鉄平) 物理化学、表面化学、電気化学系の国際誌の中で、研究テーマに関連が深い水素製造・貯蔵技術や燃料電池等における英語論文を学生に自主的に選ばせ発表させる。自分の研究テーマについて、過去に実施された他者の研究でどのような知見が得られ、どこが未だ解明されていないのかを把握できるようにする。発表を通じて、研究背景・現状の適切な把握や、専門知識および英語理解能力の修得を目的とする。 (11 尾崎 壽紀) 研究内容に関する英語論文を読み、最新の研究成果に精通することで、研究者として必要不可欠な英語力を身につけ、各自の研究内容に関する見識を深めることを目的とする。常に最新の研究内容を理解することで、各自の研究内容にフィードバックする。論文の書き方、議論の展開の仕方、研究の進め方を修得できるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先進 エネ ルギ ー ナ ノ 工 学 専 攻 科 目	特別実験及び演習	(概要) 博士課程前期課程において、入学時に定めた指導教員のもとで、研究テーマを設定し、「文献演習」とも連動させて関係分野の最新論文を講読することにより専門的知識を修得するとともに、設定したテーマに沿って研究計画を策定し、研究を遂行する。研究成果は適宜学会で発表し、修士論文としてまとめるように指導する。研究活動を通じて、課題設定能力・課題解決能力を涵養し、実社会で着実に成果を出せる基礎力・応用力を身につけることを目標とする。 (1 鹿田 真一) ワイドギャップ半導体エネルギー関連材料合成・評価及びデバイス試作・評価に関する一連の研究開発を通して、未知の現象解析・応用実現の手段・方法を学ぶ。研究開発者としての基礎及び応用展開力を養い、臨機応変に実践できるようにする。独自の研究テーマを設定し、自ら研究計画を立案してPDCAを廻すことで研究を進める。学内外及び国内外の発表を通じて、プレゼンテーション及びディスカッション能力を向上させる。英文論文執筆の能力を身につける。 (2 田中 裕久) 我々の日常生活の中で、一番身近でかつ大きなエネルギーを利用しているモノの代表が自動車と言える。特に、触媒技術を活用した燃料電池材料とデバイス開発、自動車排ガス浄化触媒とデバイス開発を取り上げ、実験のスキルを身につける。材料開発・デバイス作製・物性計測、放射光分析技術を駆使して研究を推進する能力を修得する。また、研究活動を通じて、課題形成能力と解決能力を伸ばすことで、実社会で必要とされる基礎力・応用力の修得を目標とする。 (3 大谷 昇) 課題への取り組みを通して、研究者としての基礎的なスキルを身につけることをめざす。課題としては、次世代パワーデバイス材料として期待されているSiC単結晶中の結晶欠陥評価を取り上げる。SiC単結晶をX線回折、プローブ顕微鏡観察、電気特性測定などによって評価・解析することにより、SiC単結晶中の転位、積層欠陥等の結晶欠陥の微細構造や存在形態、電気特性などを明らかにする。また、これらの評価・解析結果を基に、結晶成長プロセスにおける結晶欠陥の発生メカニズムを考察する。修士論文では、上記のことを総合的に記述・議論し、この科目のまとめとする。 (4 金子 忠昭) 半導体材料に対する高度な先進製造技術は省エネ社会を支える産業競争力の源泉である。シリコン半導体の物理的特性を超える次世代半導体材料として窒素や炭素を含む軽元素から構成される化合物結晶材料を対象に、原子レベルの制御が求められる表面・界面プロセスに関連した研究テーマを設定する。リソグラフィー技術、および結晶成長やエッチングなどの真空プロセス装置の操作技法は予め修得する。結晶材料にはSiC, AlN, Graphene, GaAsから選択し、ナノ制御すべきプロセス課題を明確にした上で研究計画を構築する。表面や界面で自発的な原子の配列制御を実現するためカイネティクスが実現するためのプロセス条件を探索する。実際の新奇物質の作製を通して課題解決能力や専門技術、そしてプレゼンテーション能力を身につけることを目的とする。 (5 日比野 浩樹) 低消費電力デバイスやエネルギー変換デバイスの部材として有望な、グラフェンに代表される二次元物質を研究対象としてテーマを設定する。二次元物質の合成と評価、デバイス応用に関する研究テーマを推進してもらう中で、結晶成長・材料分析・物性物理に関する技術と知識を修得してもらう。さらに、研究計画を立案・遂行し、その結果を発表するという、研究の一連のプロセスを経験してもらうことにより、研究に必要なスキルを身につけてもらうことを目的とする。	実験36時間 演習31.5時間

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先進 エネ ルギ ー ナ ノ 工 学 専 攻 科 目	特別実験及び演習	(6 藤原 明比古) エネルギー関連材料、特に、二次電池などの蓄電デバイス用材料や省電力デバイス用材料とそれを用いたデバイス開発に関してテーマ設定を行う。研究テーマを設定後、目標達成のために、必要に応じた材料開発、デバイス作製、物性・デバイス計測、放射光分析技術を応用し、研究を推進する能力を修得することを目標とする。また、研究活動を通じて、課題解決能力を伸ばすことで、実社会で必要とされる基礎力・応用力の修得も目標とする。 (7 若林 克法) エネルギーを高効率に利用可能とする電子・光デバイスの動作原理、およびそれに関連する物質の基礎物性について、研究テーマを設定する。各自の研究テーマを設定後、理論モデリング解析および第一原理電子状態計算によって研究課題を遂行する。研究活動を通じて、課題発見および解決の能力を伸ばすとともに、実社会で着実に成果を出せる基礎力・応用力の修得を目標とする。 (8 吉川 浩史) 次世代二次電池の開発に向けて、様々な新しい高機能正極活物質材料の創製を目的とする。また、電池反応中の様々なin situ分析法の開発とその適用による機能解明を行い、より良い材料の開発につなげることを目的とする。具体的な内容としては、高機能正極活物質材料の創製、新しい正極ファブリケーション法の開発、詳細な電気化学計測法の修得と適用、新規電気化学計測法やin situ分析法の開発といったものがあげられる。 (9 松尾 元彰) 材料工学の研究開発に必要とされる基礎的知識および技術を修得することを目的として研究テーマを設定する。具体的には燃料電池用酸素貯蔵材料および二次電池用固体電解質への応用をめざした新規水素化物の開発とその物性評価を行う。これらの研究活動を通して材料工学の基礎的知識・技術を修得するとともに、その過程で遭遇する問題解決能力を養う。研究成果は適宜学会で発表し、修士論文としてまとめるように指導する。 (10 小倉 鉄平) 次世代エネルギーキャリアである水素等の製造・貯蔵技術やその高効率発電技術である燃料電池に関連する触媒反応について、研究テーマを設定する。克服すべき課題を理解し、解決するための研究計画を立て、量子化学計算や反応シミュレーションを用いて研究を遂行できるようにする。学内外の発表を通じて、プレゼンテーション及びディスカッション能力を向上させる。研究活動を通じて、課題解決能力や専門知識を活かす応用力を身につけることを目的とする。 (11 尾崎 壽紀) 超伝導材料技術に関する研究課題を通して、研究者として基礎的な技術と知識を身につけることを目的とする。課題に対して、研究計画を立て、課題達成のために、どんな材料をどんな方法で合成し、どんな測定・データが必要なかを自分で考えることができるようにする。その過程で、問題解決能力を磨く。また得られた結果をまとめ、わかりやすくプレゼンテーション・論文発表する技術を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先進 エネ ルギ ーナ ノ工 学専 攻科 目	研究計画法ⅠA	研究立案及び文献（学術雑誌・学会誌・Web情報等）検索を通じ、既知の知見を整理し、新規の知見を得るための研究実施計画の立案と成果の予測を行うことを目的とする。「研究計画法ⅠA」では、文献（学術雑誌・学会誌・Web情報等）検索を通じ、既知の知見を整理し、検索方法や調査のポイントを理解することを目的とする。	
	研究計画法ⅠB	研究立案及び文献（学術雑誌・学会誌・Web情報等）検索を通じ、既知の知見を整理し、新規の知見を得るための研究実施計画の立案と成果の予測を行うことを目的とする。「研究計画法ⅠB」では、既知の知見を整理し、新しい知見を得るための研究計画実施の立案と成果の予測ができるようになり、実践可能で新規性のある研究計画が立てられることを目標とする。	
	研究計画法ⅡA	研究立案及び文献（学術雑誌・学会誌・Web情報等）検索を通じ、既知の知見を整理し、新規の知見を得るための研究実施計画の立案と成果の予測を行うことを目的とする。「研究計画法ⅡA」では、論理的かつ合理的で優れた研究計画書を作成するために必要となる知識と技術を身につけ、研究資金が獲得できる計画書を書けることを目標とする。	
	研究計画法ⅡB	研究立案及び文献（学術雑誌・学会誌・Web情報等）検索を通じ、既知の知見を整理し、新規の知見を得るための研究実施計画の立案と成果の予測を行うことを目的とする。「研究計画法ⅡB」では、「研究計画法ⅠA」、「研究計画法ⅠB」、「研究計画法ⅡA」で学んだことをベースとし、フィードバックを行いながら、より良い研究計画を作成し、自立した研究者として、世界的に通用するような計画立案ができることを目標とする。	
	論文作成演習ⅠA	発表及び結果分析（先行研究に対する比較等）を行い、研究成果を学会や学術誌にて発表するための素案作成を行う。「論文作成演習ⅠA」では、発表及び結果分析（先行研究に対する比較等）や、研究成果を学会や学術誌にて日本語で公表するための素案作成を行い、日本語で論文を作成し、査読付き論文誌に投稿することを目標とする。	
	論文作成演習ⅠB	発表及び結果分析（先行研究に対する比較等）を行い、研究成果を学会や学術誌にて発表するための素案作成を行う。「論文作成演習ⅠB」では、研究成果を学会や学術誌にて日本語で公表するための論文改訂や説得力のある発表をする技術を身につけ、日本語で論文を作成して投稿し、学会発表を行う。	
	論文作成演習ⅡA	発表及び結果分析（先行研究に対する比較等）を行い、研究成果を学会や学術誌にて発表するための素案作成を行う。「論文作成演習ⅡA」では、発表及び結果分析（先行研究に対する比較等）や、研究成果を学会や学術誌にて英語で公表するための素案作成を行い、英語で論文を作成し、査読付き論文誌に投稿することを目標とする。	
	論文作成演習ⅡB	発表及び結果分析（先行研究に対する比較等）を行い、研究成果を学会や学術誌にて発表するための素案作成を行う。「論文作成演習ⅡB」では、研究成果を学会や学術誌にて英語で公表するための論文改訂や説得力のある発表をする技術を身につけ、英語で論文を作成して投稿し、学会発表を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先進エネルギーナノ工学専攻科目	(特別研究)	(概要) 博士課程後期課程の3年間、入学時に定めた指導教員のもとで、研究テーマに関する高度な専門的知識及び能力を修得し、博士論文作成のための研究指導を受けることを目的とした科目である。研究指導は、毎週定められた時間帯にセミナー形式で、教授室又は先進エネルギーナノ工学研究室で実施される。この科目を通して、独創的な研究能力を養うとともに博士論文作成に向けての研究成果の積み重ねを行う。 (1 鹿田 真一) エネルギーを高効率に利用可能とする省エネルギーの基幹デバイスであるパワー半導体デバイスに関して、次世代の超効率素子をめざした材料・デバイスをテーマに設定し、関連する材料合成・評価、デバイス試作・評価を行う。理論的背景に踏み込んで、研究活動を行い、また応用まで視野にいった高度専門知識修得、解決能力を伸ばし、自立した研究開発者として研鑽を積む。発表・論文・知財を通じて適切な権利化、レポーティング能力を身につける。また学部、博士課程前期課程の学生の一部指導も行い、指導者としての経験を積む。 (2 田中 裕久) 触媒技術を応用した、燃料電池・排ガス浄化・水素安全高度化を研究テーマとして、材料開発・微細構造解析・機能発現機構の解明・実用化開発まで一貫した実験展開力および研究推進力の修得を目標とする。 特に博士課程後期課程においては、国際学会での発表や、英語論文の作成など、得られた研究成果をグローバル・インフォメーション・コモンズとするための経験を積み、スクール・モットーである「Mastery for Service」を実践でき得る研究者・高度技術者として成長することを目標とする。 (3 大谷 昇) 研究計画の立案、実験のデザインと実行、得られた結果の解析、他研究者との議論、論文の作成等、研究を自律的に進めていける研究者としての総合的な能力を身につけることを目的とする。題材としては、革新的パワーデバイス材料として期待されているSiC単結晶及びSiCエピタキシャル薄膜を取り上げ、それら材料中に存在する結晶欠陥の発生メカニズムの解明に取り組む。その過程でSiC単結晶成長プロセスや結晶欠陥の評価・解析手法に関する専門的な知識を身につける。さらに、国際会議での発表や原著論文発表等を通して、世界の第一線で活躍できる研究者としてのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を修得する。 (4 金子 忠昭) 半導体材料に対する先進製造技術の分野では装置限界が物理限界に近づき、新たな材料機能を産業化へと橋渡しするには、既存の製造装置や評価装置の限界を超える極限環境の開拓がモノづくりに必要になる。次世代の省エネルギー用パワー半導体材料として従来の製造法では原子レベルの制御が困難な炭化ケイ素や窒化アルミニウムを対象に課題を設定する。この場合の物理限界とは温度である。2000℃を超える過酷な環境でのナノレベルでの材料プロセスを実現するには、原子レベルでの物質輸送制御や空間・時間内の温度差に起因した熱歪み等の制御が重要となる。実際のモノづくりを通じたプロセス限界への理解と新規評価法を確立し、材料品質における革新機能について特許取得を含む外部発表を課すことで、自立した研究者となるため技能を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先進 エネ ルギ ー ナ ノ 工 学 専 攻 科 目	(特別研究)	(5 日比野 浩樹) 低消費電力デバイスやエネルギー変換デバイスの部材として有望な、グラフェンに代表される二次元物質を研究対象としてテーマを設定する。二次元物質の合成と評価、デバイス応用に関する研究テーマを推進する中で、自ら物質合成から構造・物性評価、デバイス作製・計測を担当することで、物質科学・工学に関わる幅広い技術と知識を修得する。さらに、自ら設定した課題に基づき、研究計画を立案・遂行し、その結果を外部発表するという、研究の一連のプロセスを経験してもらうことを通して、自立した研究者・技術者としてのスキルを身につけることを目標とする。 (6 藤原 明比古) エネルギー関連材料、特に、二次電池などの蓄電デバイス用材料や省電力デバイス用材料とそれを用いたデバイス開発に関してテーマ設定を行う。研究テーマを設定後、目標達成のために、必要に応じた材料開発、デバイス作製、物性・デバイス計測、放射光分析技術を高度に活用し、研究を効果的・効率的に推進する能力を修得することを目標とする。また、研究活動を通じて、課題発見・課題解決など、自立して研究・開発を実践できる研究者・高度技術者としての総合力を修得することも目標とする。 (7 若林 克法) エネルギーを高効率に利用可能とする電子・光デバイスの動作原理、およびそれに関連する物質の基礎物性についての理論解析および当該研究領域の進展に必要な理論計算手法の開発を、研究テーマに設定する。各自の研究テーマを設定後、理論モデリング解析および第一原理電子状態計算によって研究課題を遂行する。研究活動を通じて、高度な専門知識の修得、課題発見および解決の能力を伸ばすとともに、当該研究領域において、高度な専門性を持った自立した研究者としての研究能力を完成させる。 (8 吉川 浩史) 次世代二次電池の開発に向けて、様々な新しい高機能正極活物質材料の創製を目的とする。また、電池反応中の様々なin situ分析法の開発とその適用による機能解明を行い、より良い材料の開発につなげることを目的とする。具体的な内容としては、高機能正極活物質材料の創製、新しい正極ファブリケーション法の開発、詳細な電気化学計測法の修得と適用、新規電気化学計測法やin situ分析法の開発といったものがあげられる。なお、文献や専門書の通読を行いながら、研究を進めるとともに、定期的に研究報告やディスカッションを行うことで、研究の進捗具合を確認し、研究の方向性の微調整を行う。最後に、得られた研究成果に関する取りまとめ（論文の作成）と研究発表を行う。 (9 松尾 元彰) 燃料電池用水素貯蔵材料および二次電池用固体電解質への応用をめざした新規水素化合物の開発とその物性評価を研究テーマとして設定し、課題設定、研究計画の立案、データ解析、英語論文作成スキルの修得、など自立して研究を進めていける研究者としての総合的な能力を身につける。また、研究テーマに関連した文献を調査・収集し、内容を分析する活動を通して、水素エネルギー社会の実現に貢献できる高度な専門知識を修得する。さらに、国際会議での発表や原著論文発表等を通して、世界の第一線で活躍するためのプレゼンテーション能力を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科 先進エネルギーナノ工学専攻 博士課程後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先進 エネ ルギ ー ナ ノ 工 学 専 攻 科 目	（特別研究）	（10 小倉 鉄平） 次世代エネルギーキャリアである水素等の製造・貯蔵技術やその高効率発電技術である燃料電池に関連する触媒反応について、自ら研究テーマを設定させる。克服すべき課題を自ら発見し、解決するための研究計画を立て、その課題解決に適した計算科学的手法を選定し研究を遂行できるようにする。論文執筆や国内外の学会発表を通じて、特に英語でのプレゼンテーション及びディスカッション能力を向上させる。研究活動を通じて、自主的な課題発見・解決能力、高度な専門知識を活かした応用力・オリジナリティを身につけ、一人の研究者として自立できるようになることを目的とする。 （11 尾崎 壽紀） 究極の省エネルギー材料技術である超伝導材料技術に関する研究課題を通して、世界で活躍できる研究者としての能力とアクティビティを身につけることを目的とする。具体的には、研究課題の設定から、実験計画の立案、実験装置の組み立て(改造)と遂行、得られた結果の解析と考察、プレゼンテーション・学術論文発表まで、一連のプロセスを繰り返し経験する。	

学校法人関西学院 設置認可等に関わる組織の移行表

平成30(2018)年度				平成31(2019)年度				変更の事由									
				入学 定員	編入学 定員	収容 定員											
関西学院大学							→	関西学院大学									
神学部			30	-	120			神学部			30	-	120				
文学部	文化歴史学科		275	-	1,100			文学部	文化歴史学科		275	-	1,100				
	総合心理科学科		175	-	700				総合心理科学科		175	-	700				
	文学言語学科		320	-	1,280				文学言語学科		320	-	1,280				
社会学部	社会学科		650	-	2,600			社会学部	社会学科		650	-	2,600				
法学部	法律学科		520	-	2,080			法学部	法律学科		520	-	2,080				
	政治学科		160	-	640				政治学科		160	-	640				
経済学部			680	-	2,720			経済学部			680	-	2,720				
商学部			650	-	2,600			商学部			650	-	2,600				
理工学部	数理科学科		75	-	300			理工学部	数理科学科		75	-	300				
	物理学科		75	-	300				物理学科		75	-	300				
	先進エネルギーナノ工学科		80	-	320				先進エネルギーナノ工学科		80	-	320				
	化学科		75	-	300				化学科		75	-	300				
	環境・応用化学科		80	-	320				環境・応用化学科		80	-	320				
	生命科学科		80	-	320				生命科学科		80	-	320				
	生命医化学科		80	-	320				生命医化学科		80	-	320				
	情報科学科		75	-	300				情報科学科		75	-	300				
	人間システム工学科		80	-	320				人間システム工学科		80	-	320				
	総合政策学部	総合政策学科	245	3年次 20	1,020				総合政策学部	総合政策学科	245	3年次 20	1,020				
メディア情報学科		120	-	480			メディア情報学科	120		-	480						
都市政策学科		100	-	400			都市政策学科	100		-	400						
国際政策学科		125	3年次 10	520			国際政策学科	125		3年次 10	520						
人間福祉学部	社会福祉学科	130	-	520			人間福祉学部	社会福祉学科	130	-	520						
	社会起業学科	70	-	280				社会起業学科	70	-	280						
	人間科学科	100	-	400				人間科学科	100	-	400						
教育学部	教育学科	350	3年次 5	1,410			教育学部	教育学科	350	3年次 5	1,410						
国際学部	国際学科	300	-	1,200			国際学部	国際学科	300	-	1,200						
関西学院大学計				5,700	3年次 35	22,870			関西学院大学計				5,700	3年次 35	22,870		

平成30(2018)年度				平成31(2019)年度				変更の事由					
入学 定員				編入学 定員				収容 定員					
変更の事由													
関西学院大学大学院博士課程前期課程・修士課程				→	関西学院大学大学院博士課程前期課程・修士課程								
神学研究科	神学専攻	10	-	20	神学研究科	神学専攻	10	-	20				
文学研究科	文化歴史学専攻	22	-	44	文学研究科	文化歴史学専攻	22	-	44				
	総合心理学専攻	20	-	40		総合心理学専攻	20	-	40				
	文学言語学専攻	22	-	44		文学言語学専攻	22	-	44				
社会学研究科	社会学専攻	12	-	24	社会学研究科	社会学専攻	12	-	24				
法学研究科	法学・政治学専攻	45	-	90	法学研究科	法学・政治学専攻	45	-	90				
経済学研究科	経済学専攻	30	-	60	経済学研究科	経済学専攻	30	-	60				
商学研究科	商学専攻	30	-	60	商学研究科	商学専攻	30	-	60				
理工学研究科	数理科学専攻	10	-	20	理工学研究科	数理科学専攻	10	-	20				
	物理学専攻	22	-	44		物理学専攻	22	-	44				
						<u>先進エネルギーナノ工 学専攻</u>	<u>30</u>	-	<u>60</u>	専攻の設置(届出)			
	化学専攻	33	-	66		化学専攻	33	-	66				
	生命科学専攻	35	-	70		<u>環境・応用化学専攻</u>	<u>35</u>	-	<u>70</u>	専攻の設置(届出)			
						生命科学専攻	35	-	70				
	情報科学専攻	22	-	44		<u>生命医化学専攻</u>	<u>30</u>	-	<u>60</u>	専攻の設置(届出)			
	人間システム工学 専攻	25	-	50		情報科学専攻	22	-	44				
総合政策研究科	総合政策専攻	50	-	100		人間システム工学 専攻	25	-	50				
言語コミュニケーション 文化研究科	総合政策専攻	50	-	100	総合政策研究科	総合政策専攻	50	-	100				
言語コミュニケーション文化 研究科	言語コミュニケーション文化 専攻	30	-	60	言語コミュニケーション 文化研究科	言語コミュニケーション文化 専攻	30	-	60				
人間福祉研究科	人間福祉専攻	8	-	16	人間福祉研究科	人間福祉専攻	8	-	16				
教育学研究科	教育学専攻	6	-	12	教育学研究科	教育学専攻	6	-	12				
国際学研究科	国際学専攻	6	-	12	国際学研究科	国際学専攻	6	-	12				
関西学院大学大学院 博士課程前期課程・修士課程計				438	-	876	関西学院大学大学院 博士課程前期課程・修士課程計				533	-	1,066

平成30(2018)年度				平成31(2019)年度				変更の事由					
入学 定員	編入学 定員	収容 定員		入学 定員	編入学 定員	収容 定員							
関西学院大学大学院博士課程後期課程				→ 関西学院大学大学院博士課程後期課程									
神学研究科	神学専攻	2	-	6	神学研究科	神学専攻	2	-	6				
文学研究科	文化歴史学専攻	7	-	21	文学研究科	文化歴史学専攻	7	-	21				
	総合心理学専攻	6	-	18		総合心理学専攻	6	-	18				
	文学言語学専攻	7	-	21		文学言語学専攻	7	-	21				
社会学研究科	社会学専攻	4	-	12	社会学研究科	社会学専攻	4	-	12				
法学研究科	政治学専攻	2	-	6	法学研究科	政治学専攻	2	-	6				
	基礎法学専攻	2	-	6		基礎法学専攻	2	-	6				
	民刑事法学専攻	2	-	6		民刑事法学専攻	2	-	6				
経済学研究科	経済学専攻	3	-	9	経済学研究科	経済学専攻	3	-	9				
商学研究科	商学専攻	5	-	15	商学研究科	商学専攻	5	-	15				
理工学研究科	数理科学専攻	2	-	6	理工学研究科	数理科学専攻	2	-	6				
	物理学専攻	3	-	9		物理学専攻	3	-	9				
						<u>先進エネルギーナノ工 学専攻</u>	2		6 専攻の設置(届出)				
	化学専攻	6	-	18		化学専攻	6	-	18				
	生命科学専攻	5	-	15		<u>環境・応用化学専攻</u>	2		6 専攻の設置(届出)				
						生命科学専攻	5	-	15				
	情報科学専攻	2	-	6		<u>生命医化学専攻</u>	2		6 専攻の設置(届出)				
	人間システム工学 専攻	2	-	6		情報科学専攻	2	-	6				
						人間システム工学 専攻	2	-	6				
総合政策研究科	総合政策専攻	5	-	15	総合政策研究科	総合政策専攻	5	-	15				
言語コミュニケーション 文化研究科	言語コミュニケーション文化 専攻	3	-	9	言語コミュニケーション 文化研究科	言語コミュニケーション文化 専攻	3	-	9				
人間福祉研究科	人間福祉専攻	5	-	15	人間福祉研究科	人間福祉専攻	5	-	15				
教育学研究科	教育学専攻	3	-	9	教育学研究科	教育学専攻	3	-	9				
国際学研究科	国際学専攻	2	-	6	国際学研究科	国際学専攻	2	-	6				
経営戦略研究科	先端マネジメント専攻	4	-	12	経営戦略研究科	先端マネジメント専攻	4	-	12				
関西学院大学大学院 博士課程後期課程計				82	-	246	関西学院大学大学院 博士課程後期課程計				88	-	264

平成30(2018)年度				平成31(2019)年度				変更の事由	
入学 定員	編入学 定員	収容 定員		入学 定員	編入学 定員	収容 定員			
関西学院大学大学院専門職学位課程				→	関西学院大学大学院専門職学位課程				
司法研究科	法務専攻	30	-	90	司法研究科	法務専攻	30	-	90
経営戦略研究科	経営戦略専攻	100	-	200	経営戦略研究科	経営戦略専攻	100	-	200
	会計専門職専攻	70	-	140		会計専門職専攻	70	-	140
関西学院大学大学院 専門職学位課程計					関西学院大学大学院 専門職学位課程計				
		200	-	430			200	-	430

平成30(2018)年度					平成31(2019)年度				変更の事由
入学 定員	編入学 定員	収容 定員		入学 定員	編入学 定員	収容 定員			
聖和短期大学				→	聖和短期大学				
保育科	150	-	300		保育科	150	-	300	
聖和短期大学計	150	-	300		聖和短期大学計	150	-	300	